

1. 件名：志賀原子力発電所2号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（73）

2. 日時：令和5年7月31日（火）14時30分～17時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：野田企画調査官、海田主任安全審査官、宮脇安全審査専門職、原田安全審査専門職、大井安全審査専門職

北陸電力株式会社：藤田執行役員 他8名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<本年7月4日受取済>

- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 敷地周辺（海域）の断層の評価（コメント回答）
- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について 補足資料
- ・ 志賀原子力発電所 2号炉 適合性審査コメントリスト【敷地周辺の地質・地質構造】

時間	自動文字起こし結果
0:00:04	では始めます。
0:00:06	規制庁の宮脇です。
0:00:09	敷地周辺海域の断層の評価ということで、
0:00:14	今日コメント回答。
0:00:16	の方、事業者の方から、
0:00:18	まず最初に説明していただきたいと思います
0:00:22	よろしくお願いします
0:00:24	はい。
0:00:27	はい。北陸電力の吉田です。それでは説明に入らせていただきます。
0:00:33	まず資料の確認をさせていただきますが、資料 2 式 2 種類ございます。厚い方が本資料、コメント回答の本書です。
0:00:42	というものがですね、
0:00:46	補足資料となっております。
0:00:49	はい。その他本日の参考としてですね、周辺の
0:00:53	過去からのコメント回答のコメントの一覧表をおつけしてございます。
0:00:58	それでは本資料、厚い諮問資料に基づきまして、ご説明に入ります。
0:01:03	3 ページの方、お願いいたします。
0:01:10	はい。
0:01:10	この周辺海域の断層の評価につきましては昨年 5 月の審査会合でご審議いただきましたが、今回はその審査会合でいただいたコメントに該当するものでございます。
0:01:23	資料冒頭には、ここでローマ数字 1 から 4 書いてございます。まず私の方から、前回会合でいただいたコメントに対する主な回答の概要ですね、これ 4 番の項目に該当しますが、
0:01:36	これを説明させていただきます。
0:01:39	少し飛びまして 17 ページの方をお願いいたします。
0:01:44	はい。
0:01:47	ここにはですね評価の流れにつきまして前回から変更した内容を示してございます。
0:01:53	変更点がですね、わかるように、左右並べて比較して表記してございます。
0:01:59	まず中程に省の枠内にあります文献調査につきまして、前回ではですね個別断層の段階、上の方とですね下の方の連動評価の段階で、
0:02:10	二つに分割しておりましたが、最初の段階で一括して整理すると。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:15	いうことになってございます。
0:02:17	次に下の 3 章の追加の連動評価についてですが、まず連動の有無を検討する断層を抽出する際に、
0:02:26	前はマツダの 5 キロルールを、を用いておりましたが、今回は、その議論にこだわらず、隣接する断層同士は検討の対象に挙げて、検討することとしてございます。
0:02:39	また最終的に連動を考慮するかしないかという判断につきましては、
0:02:44	前はですね国の評価事例を個々に分析しまして、画一的なルールを設定してございましたが、
0:02:52	今回は、各データを吟味した上で総合的に評価するということに見直してございます。
0:02:58	次の 18 ページを
0:03:00	ご覧ください。
0:03:02	今ほどご説明しました連動の評価の、
0:03:06	検討の対象の抽出ですが、5 キロルールを用いた前回では、ここで 10 個の組み合わせでしたが、今回は 13 項、
0:03:17	を追加して全 23 パターンを検討の対象に挙げてございます。
0:03:25	19 ページ以降につきましては、連動評価に関しまして、個別の横断評価についてのコメントへの回答概要でございます。
0:03:33	まずこのページは、海士岬沖断層体と羽咋沖東撓曲の評価に関してですが、
0:03:41	傾斜方向が逆であるという、データとしてですね、深部データであります東大のエアガン等を、オダデータをですねしっかり確認するとともに、
0:03:53	バックスラストなど、同傾斜の断層が隠れていないかということもしっかり確認して、
0:04:00	ございます。詳細は本部の中でご説明いたします。
0:04:04	めくっ
0:04:05	ていただいて 21 ページをお願いします。
0:04:10	はい。これは、海士岬沖断層体と笹波沖断層体東部の連動の評価に関してです。
0:04:19	ここはですね両断層間の詳細な音波探査記録がですね、
0:04:25	変位量の分布、のデータもですね、整理して検討を追加してございます。
0:04:31	はい。続きまして 23 ページ。
0:04:35	をご覧ください。これはですね笹波沖だ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:39	沖縄の相対全長を、
0:04:41	能登半島北部沿岸域断層体の連動評価に関してです。
0:04:45	ここではですね猿山沖セグメントとですね、屈曲部を震源断層として考えまして、深部データ、そして変位量データを
0:04:55	踏まえて総合的に今回は評価してございます。
0:05:00	はい。続きまして 20、4 ページめぐりまして、
0:05:06	これはですね、各断層の評価で用いております深部データの重力異常分布、
0:05:11	ですが、その探査測定点がどこにあるかというのを、しっかり各図面に添付してございます。
0:05:20	この能登半島周辺の海域はですね、海域の船上重力に加えまして、
0:05:26	沿岸域での精度の高い海底重力データというのも、数多く
0:05:32	ございますのでそういった点も、図表にプロットしてございます。
0:05:37	続いて 25 ページ。
0:05:39	ここはですね笹波沖断層体制部の、
0:05:42	榎並瀬田の評価についてです。
0:05:45	三条中央の撓曲の延長のですね、緑の丸の 1 に、局所的な変形が確認されてましたので、この三条中央の撓曲がこの変形構造を、
0:05:58	通過するとして、どの測線まで最大伸びるかということを今回詳細に説明いたします。
0:06:05	結果としまして、この産総研の大江アガワ測線も確認した上で、
0:06:11	この緑でハッチングした範囲の左の下のグー各部の位置を横断西端と評価してございます。
0:06:19	これにつきましても後程説明いたします。26 ページをお願いします。
0:06:25	今ほどの笹波沖断層体制部のさらに南西方向に分布する小断層群分布域につきまして、その性状、大矢ですね、全体像について詳細に確認しました。
0:06:39	結果としてこの震源断層ではないということの評価してございます。
0:06:44	また後程説明いたします。
0:06:45	27 ページ。
0:06:49	お願いします。
0:06:51	これは能登半島ですね先端の群発地震についてですが、6 月 9 日にですね、地震調査委員会の報告がありました。
0:07:01	これによりますと、一連の活動には流体の移動が関与している可能性があるというふうに、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:06	報告がありました。こういった情報も含めまして、引き続き、
0:07:13	地震の状況そして国の評価をですね、注視しているというところがございます。
0:07:18	それでは詳細な内容につきまして引き続き、イシダの方から説明させていただきます。
0:07:26	北陸電力の石田です。
0:07:28	それでは 31 ページ以降の資料について、前回の審査会合からの変更点を中心にご説明させていただきます。
0:07:35	まず 36 ページの方をお願いいたします。
0:07:42	36 ページこちら能登半島周辺の地質構造の特徴を説明した資料になりますが、今回能登半島周辺に分布します活断層の傾斜角についての説明を追加で作成しております。
0:07:55	続いて 64 ページの方をお願いいたします。
0:08:06	64 ページにつきましては活断層海域の活断層の評価フローになりますけれども、58 ページに示す陸域のプロについても同様の変更をしていますので、こちらの海域の活断層評価フローを例にご説明いたします。
0:08:21	前回連動評価のうち、国による連動評価の確認につきましては、断層の評価の後に行うフローというふうになっておりましたが、今回フローの最初の文献調査で行った上で、断層の評価に反映すると。
0:08:36	いう流れに変更しております。
0:08:39	具体的な例といたしまして、79 ページの方をお願いいたします。
0:08:47	こちら笹波沖断層THAIの文献調査になりますけれども、紫字で記載しておりますが、笹波沖断層体の東部と西部の連動に関する文献調査結果を追記しております。
0:09:00	このように、国による連動の評価を反映しました、富山湾西側海域断層や能登半島北部沿岸域断層体、
0:09:08	能登半島東方沖の断層等の文献調査に関する資料につきましても、同様な修正を行っております。
0:09:16	次に、個別の断層評価で修正した箇所についてご説明いたします。
0:09:21	少し戻りまして 77 ページの方をお願いいたします。
0:09:30	こちらコメント 58 番の回答になりますけれども、笹波沖断層体制部の南先端付近の変形構造の南方延長に、
0:09:39	図中に赤丸で示します位置に西落ちの変形が認められまして、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:45	こちらがナンバー100 位認められることから、このNo. 101.5 測線とNo.8 測線の間をこの局所的な変形構造が抜けていかないと、連続していかないと。
0:09:56	いうふうな旨を追記しております。
0:09:59	さらに 105 ページ、こちらの詳細を説明しております 105 ページの方には、
0:10:04	この部分を拡大した図をつけておりまして、それを明確に示しております。
0:10:12	次に、91 ページの方をお願いいたします。
0:10:21	こちら笹波沖断層田井東部の活動性についてですが、2007 年能登半島地震の知見で、様々な観点から、活動間隔が推定されております。
0:10:31	それらを整理した資料を追加しております。
0:10:35	この笹谷三木断層台東部の活動間隔については、
0:10:39	これの文献をまとめますと 1000 年から 2000 年程度であるとされておりまして、こちらのデータにつきましては後程の参照の笹波沖断層大東部、
0:10:50	との連動評価の根拠データとしても用いております。
0:10:56	続いて飛びまして 304 ページの方をお願いいたします。
0:11:09	304 ページこちらコメント 60 番の回答になります。
0:11:14	502023 年 5 月 5 日に発生しました。
0:11:18	マグニチュード 6.5 の地震と、近接して分布して参ります能登半島北部沿岸ヤギ断層体との関連性を確認するために、
0:11:27	地震調査委員会の方から、6 月 9 日に公表されました震源分布と、当社の断層トレース位置との比較を行っております。
0:11:37	その結果、震源分布と断層トレースについては明瞭な位置の対応は認められていません。
0:11:44	これらの関係性については現在判断できないという状況になっております。
0:11:47	こちらについては今後も情報収集続けまして、必要に応じて更新を行っていきたいというふうに考えております。
0:11:56	次に 331 ページ以降になりますけれども、これは 331 ページ以降には、前回補足資料として整理をしておりました、30 キロ以遠の断層のうち、
0:12:08	相対的に影響の小さい断層について、
0:12:12	ですが、整理されておりました、今回後程説明します 3 章の連動検討の方で、対象となる断層が多くあることから、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:22	今回本資料で説明する構成に変更をしております。
0:12:26	また、一部、評価内容を変更した断層がありますので、そちらについてご説明させていただきます。
0:12:32	350 ページの方をお願いいたします。
0:12:42	350 ページですけれどもこれはK10と3Kジェット4の評価結果となります。
0:12:48	こちらの断層につきましては、国の評価を反映し、連動を評価するという点につきましては変更ございませんが、
0:12:56	前回の審査会合では国交省ほか2014の評価を反映しまして、いずれの断層も南東傾斜として連動するというふうな評価を行ってございました。
0:13:07	ただし、断層単独の評価としましては、当社としてはKZ3が北西傾斜、KZ4が南東傾斜であるとしておりまして、今回はこの断層の傾斜方法が異なるものにつきましては、
0:13:20	当社の画一的な評価の方法でいきますと、連動を考慮しないというふうな結果となるということもありまして、当社としてはこの国交省が2014のいずれも南東傾斜という評価を反映すると。
0:13:33	ということとしてございました。
0:13:35	ただし今回連動評価の方法につきましては、各調査データを踏まえて総合的に判断するというふうに変更したことを受けまして、このKZ3kAZ4につきましても、
0:13:46	傾斜方向に関するデータを拡充した上で、この地下深部で断層面が離れていく関係にある。
0:13:52	というふうに確認ができていますのですけれども、それで連動の可能性は低いというふうに考えてはいるのですが、文科省ほか2016が、このK03系図というにつきまして逆傾斜の連動を考慮していると。
0:14:05	いうことを踏まえまして、今回はこの系列3kgfについては、逆傾斜での連動を評価すると。
0:14:12	いうふうに評価を変更しております。
0:14:15	個別の断層評価の変更点は以上となります。
0:14:18	続いて399ページの方をお願いいたします。
0:14:29	こちら399ページ、コメント59万円の回答になりまして、敷地の西方に分布します小断層群の評価結果となります。
0:14:39	小断層群が分布する会議を横断する、スパーカーの音波探査記録を確認しますと、このページの右上に記載しております。音波探査記録、
0:14:50	に見ますと、わずかな変位変形が多数確認できます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:56	さらにこの図の右には、例として拡大図示しておりますけれども、
0:15:00	傾斜方向と、地層の落ち方向の関係を考慮しますと、これらの断層は正断層であるというふうに判断されます。
0:15:09	また、これら隣接する測線を確認しましても、
0:15:13	これらの多数の断層同士が明らかに正常が一致する断層というものが認められております。認められず、平面的な連続性が乏しいということが言えます。
0:15:23	一方で、この 399 ページの右下図には、地下深部の記録である強カスパーカーですとかエアガンの記録、
0:15:31	確認しておりますけれども、この深部を確認した記録では、A断層、
0:15:38	は認められておりません。
0:15:41	事、またこの小断層群の周囲には、先ほどの揭示とサンケイジェット 4 ですとか、羽咋沖西撓曲といった断層関連褶曲が分布しておりまして、
0:15:50	これらの活動によって、基盤上部の堆積層に、
0:15:54	引っ張り応力、院長力が生じたことによって、これらの小断層群が形成されたものと、
0:16:00	いうふうに考えております。
0:16:03	またエアガン等の測線でもこれは地下深まで連続するものではないと。
0:16:07	いうふうに判断できることから、この小断層群は、震源として考慮する活断層には該当しないというふうに評価をしております。
0:16:17	次に 413 ページの方をお願いいたします。
0:16:24	今回、敷地周辺陸域の断層を抜粋して載せておりまして、こちらは後程参照で、会議の断層と連動の検討を行う二つの断層を、
0:16:37	追加して説明資料を追加しております。
0:16:41	これらはいずれも 30 キロ以遠の断層になりまして、外山斗南部屋断層体の西部と久里浜断層体の二つになります。
0:16:49	まず 415 ページをお願いいたします。
0:16:52	トナミ部屋断層体制部の評価となります。
0:16:58	トナミ部屋断層体制部は、富山県の高岡市から南砺市までの区間に図示されている石動断層と法輪寺断層から構成される断層になります。
0:17:07	文献調査の結果とナミヘイ断層体制部は、走向がNESW方向の北西傾斜の断層であり、後期更新世以降の活動が否定できないと評価できます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:20	また断層長さにつきましては、この断層を図示している文献のうち、最も長く断層を図示している地震調査委員会のオク東端から南西番までの約 26 キロ区間を当社は評価しております。
0:17:34	続いて 427 ページの方をお願いいたします。
0:17:41	こちら富山県の外山氏の方から外山まで分布しております呉葉山断層体の評価結果となります。
0:17:48	こちらの断層につきましても文献調査の結果、層厚がNESW方向の北西傾斜の断層でありまして、
0:17:56	後期更新世以降の活動が否定できないと評価できます。
0:18:01	断層長さにつきましては、オク東端は富山大学地域地盤環境研究所 2011 が実施しました音波探査結果を基に図示している。
0:18:11	英国東端としまして、何西端は地震調査委員会が図示している。
0:18:16	箇所までの約 35 キロ区間を評価しております。
0:18:22	以上が今回主に追加した敷地周辺陸域の断層の評価の説明となります。
0:18:27	2 章の追加の説明の部分は以上となります。
0:18:31	続いて 3 章の変更点の説明をさせていただきます。
0:18:35	438 ページの方をお願いいたします。
0:18:45	この 438 ページに行きましてはコメント 51 番の 52 番への回答となりますけれども、追加の連動評価につきましては今回、以下の 3 ステップで行うこととしております。
0:18:57	これらの変更点の詳細についてご説明いたします。まず 439 ページの方をお願いいたします。
0:19:05	こちらステップ 1 の組み合わせの選定に関する資料となりますが、
0:19:10	前回までは、マツダ 190 の 5 キロルールを基準としておりましたが、安全側の観点から、5 キロ以上の離隔があるものや層厚の異なるもの、
0:19:20	併走するものも含めて選定しまして、
0:19:23	440 ページの方に示します、23 パターンの断層の組み合わせを選定しております。
0:19:32	この時フクダ断層と兜岩沖断層の連動評価の組み合わせの選定につきましては、コメントの 53 番の回答にもなっております。
0:19:41	ただし 441 ページに示しておりますけれども、併走して分布する断層のうち、連動を考慮した場合でも、全体としての断層長さが変わらず、かつ敷地から遠方に分布する断層の長さが短い 4 パターンにつきましては、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:57	これは検討対象断層から除外をしております。
0:20:01	続いてステップ 2 の変更点になります。
0:20:04	445 ページの方をお願いいたします。
0:20:09	これは国による連動評価の事例を確認しておりますけれども、
0:20:13	この確認した事例のうちの事例から、連動の有無を判断するために確認している項目ごとに整理をしております。
0:20:22	こういった表を今回追加しました。
0:20:25	続いて 446 ページの方をお願いいたします。
0:20:29	ステップ 3 の変更点になりますけれども、連動評価に当たりましては、先ほどもご説明、説明いたしましたが一時的な評価方法とせず、各データを確認した上で、エンドウの有無について総合的に評価を行うこととしております。
0:20:45	そして確認する項目のうち、断層面の傾斜方向につきましては、傾斜方向が異なる断層が連動した過去の事例を確認しまして、
0:20:55	断層面の傾斜方向が異なる場合は、これらのケースと比較することとしております。
0:21:02	447 ページに、その検討結果を示しております、
0:21:09	A4、
0:21:10	今回ケースを追加し、総合的な評価を行った結果、魚津断層体と能登半島東方沖の断層のみ連動を考慮することとしております。
0:21:21	そして 448 ページをお願いいたします。
0:21:25	こちらコメント 54 番の回答にもなりますけれども、先ほどありました断層面の傾斜方向に小が異なる断層が連動した事例につきまして、
0:21:35	1993 年の北海道南西沖地震と、2007 年の新潟県中越沖地震を例にちよっと確認を行いました。
0:21:43	まず、この 1993 年の北海道南西沖地震の事例につきましてですが、こちら断層面の傾斜方向が異なりまして、
0:21:51	地下深部で断層面が離れていく関係、いわゆるは野地の関係にある断層分布がもともと推定されていましたが、震源分布や音波探査の詳細な解析によって、
0:22:02	一方の断層がバックスラストとなるような震源断層が存在していると。
0:22:07	実際には同傾斜の断層が連続しておりそれらが連動したと。
0:22:11	という事例であることがわかりました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:14	そこで、この話の形態の断層同士の連動評価にあたっては、この検討対象断層がバックスラストとなるような断層の存在の可能性を考慮しまして、
0:22:25	同傾斜となるような断層の有無を確認することとしております。
0:22:31	次に 2007 年の新潟県中越沖地震につきましては、断層面の傾斜方向が異なり、地下深部で近づく関係、いわゆるVの字の関係にある断層でありまして、
0:22:42	これらは互いに共役な関係にありまして、それらが連動したという事例でありました。
0:22:48	そこでこのVの字の形態の断層同士の連動評価に当たりましては、それらの断層が共役関係にあるかどうかと。
0:22:56	いう部分を確認することとしております。
0:23:00	この協力関係にあるかどうかにつきましては、450 ページの 450 ページの右下の方に、
0:23:08	狩野ムラタ 1998 に示されております、共役断層、
0:23:12	の、このTに当てはまるか否かで、判断をすることとしております。
0:23:19	断層ごとの詳細な検討につきましては以降の組み合わせごとの検討結果に記載をしております。
0:23:25	評価方法に関する変更点は以上となります。
0:23:29	続いて、今回追加した連動の組み合わせの検討結果の説明と、前回から選定していた組み合わせで変更追加した点についてご説明いたします。
0:23:40	453 ページの方をお願いいたします。
0:23:45	すいませんまず検討結果の整理についてなんですけれども、現在、考慮する項目ごとに整理を行っているんですけども、先日の面談での紙、ご指摘受けましてちょっと調査方法ごとに整理する。
0:23:58	ように変更をする予定としております。
0:24:01	後程この新しい整理方法で、2 例ほど作成事例を作成しましたので、そちらで説明させていただきたいと思ってるんですけども、まずはこの資料で追加データですとか新たに検討したケースの評価について先に説明させていただきます。
0:24:17	それではまず福浦断層と兜岩沖断層の連動の検討結果についてご説明いたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:24	フクダ断層と兜岩沖断層は、各種の調査結果から、断層面の傾斜方向が異なりまして、地下深部で断層面が近づく関係、いわゆるV字関係にあると判断されます。
0:24:37	そこで共役関係の有無の検討を 461 ページの方で行いました。
0:24:46	フクダ断層と兜岩沖断層は、左下図に示しますように進藤－3.5 キロ付近で約 60 度の鋭角で交わる関係にあると考えられます。
0:24:57	いずれも逆断層であると考えられることから、両断層の位置関係と運動方向から先ほどの加納ムラタ 1998 による共役断層、
0:25:06	には該当しないというふうに判断をしております。
0:25:10	これによってフクダ断層が兜岩沖断層を切っている、もしくは、兜岩沖断層が、
0:25:16	福浦断層を切っているというふうに考えられまして、
0:25:19	いずれか一方の断層は地下深部の地震発生層において連続せず、両断層がともに震源断層として同時に活動することはないというふうに判断をしております。
0:25:30	このデータに加えまして、両断層間の音波探査記録に変位変形が認められないことや、
0:25:36	断層両側の地質分布が異なることなどのデータを総合的に判断しまして、両断層の連動は考慮しないと。
0:25:43	というふうな評価を行っております。
0:25:47	続いて、464 ページをお願いいたします。
0:25:52	こちらも今回追加した、碁盤島沖断層と利根川南岸断層の連動結果連動の検討結果になります。
0:26:01	これらの断層は、海上音波探査反射法地震探査の結果、
0:26:06	から断層面の傾斜方向が異なり、
0:26:09	地下深部で断層面が離れていく関係よりは野地の関係にあると判断されます。
0:26:14	そこでこれらの断層がバックスラストとなるような、逆傾斜の有無について、周辺の音波探査記録等を確認しておりますが、そういった断層は認められないということから、同一傾斜の断層が連続していないということを確認しております。
0:26:28	さらに、この話の関係にあるケースについてはこういった同様なケース検討を行っております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:34	さらに、地質構造の観点ですとか、重力異常分布の観点も踏まえまして、これらの連動を示唆するようなデータはないということから、両断層のレートは考慮しないというふうに評価をしております。
0:26:48	次に 476 ページの方をお願いいたします。
0:26:53	海士岬沖断層体と泊行き東撓曲の連動の検討結果になります。
0:26:59	こちら前回の審査会合でも、選定していた組み合わせになりますけれども、
0:27:03	今回追加変更した検討内容につきましては、紫色の下線を引いております。
0:27:11	先日の面談ではこの表の整理方法について、
0:27:15	コメントいただきまして、
0:27:19	整理の方法は後程説明、こちらの三崎と浜黒木ヒガシを事例に、後程説明させていただきます。
0:27:27	まず 477 ページから 483 ページにかけまして、
0:27:32	前回、477 ページの産総研の文献を示しておりましたけれども、さらに、478 ページの方に、文科省ほか 2015 の文献、
0:27:43	を追加したりですとか、
0:27:45	479 ページ以降には、当社による地質調査所のエアガンの再解析結果等を追加しまして、深部の断層形状に関するようなデータを追加しております。
0:27:58	さらに断層周辺には、両断層がバックスラストとなるような、逆傾斜の断層がないということも確認しております。
0:28:05	次に 490 ページの方をお願いいたします。
0:28:13	490 ページ、これは当社の音波探査記録の解析結果から、D湾層基底の変位量を判読しまして、変位量分布を作成しました。
0:28:22	海士岬沖断層体にまず見ますと、南部の中央付近が大きな変位を示しておりまして、端部付近では小さくなるような傾向を示しております。
0:28:32	また、海士岬沖断層体の中間部の方には、B湾層に変位が認められておりません。
0:28:39	またヤギの羽咋沖東撓曲については、非常に断層の中央付近が大きく、両端部付近で小さくなる傾向にあるということがわかります
0:28:49	いずれの断層もそれぞれの区間ごとにヤマガタの傾向を示していることから、この辺様分布からは少なくとも後期更新世以降に一連で活動した傾向は認められないと。
0:29:00	というふうに判断しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:03	海士岬沖断層と船用東撓曲につきましては、以上の追加データを踏まえまして、両断層の連動は考慮しないというふうに改めて評価をしています。
0:29:14	次に 494 ページの方、お願いいたします。
0:29:21	こちら海士岬沖断層体と笹波沖断層体東部の連動の評価結果となりまして、こちらも前回の会合からの追加変更点についてご説明いたします。
0:29:32	まず 500 記事の方をお願いいたします。
0:29:38	こちら先日の面談の方でも簡単にご説明したんですけれども、海士岬沖断層体の北東対について、当社の評価と文献の評価が異なっていると。
0:29:47	ということでこの評価の違いについて説明をしております。
0:29:51	この当社と文献では、海士岬沖断層体を評価するに当たりまして、確認する測線の数が異なっていると。
0:29:58	文献では、ブーマー測線を確認していますけれども、
0:30:02	当社についてはこのブーマ測線に加えて、当社が行っているスパーカー測線を用いて評価を行っております。
0:30:10	当社は断層構造が推定される区間を、笹波沖断層THAIの分岐。
0:30:15	撓曲構造が推定される区間を、海士岬沖断層単位の間部の方に対応するというふうに評価をしておりますけれども、
0:30:23	この調査を行った井上ほか 2007 等の文献では、この当社が二つの構造に区別したものを、ブーマー測線だけだと、一つの構造として、
0:30:34	評価できるということから、当社がサノウメキ断層体の分岐断層としている区間も含めて、雨水沖断層体と評価しているというふうに考えております。
0:30:45	この評価に関する資料につきましては、先日の面談でもコメントありましたけれども、2 章の海士岬沖断層体の端部評価として用いると。
0:30:54	ことが適切かと思いますので、次回の資料ではこの掲載箇所につきましては修正させていただきたいと考えております。
0:31:02	続いて 508 ページの方をお願いいたします。
0:31:10	こちら海士岬沖断層体と笹波断層体東部のB湾層基底の変位量分布を比較した資料となります。
0:31:18	この海士岬沖断層体の変容分布は、先ほどはっきりヒガシ当局との連動でもご説明した通りですけれども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:26	佐々並木断層大東部につきましては、ちょっと海域部分のみの変位量分布になりますけれども、北東方向に大きくなる傾向にあります。
0:31:35	そして海士岬断層体との境界では、連続するような傾向にはないというのがわかります。
0:31:41	従って両断層の変位量の傾向を変位量分布の傾向が異なっておりまして、両断層が少なくとも後期更新世以降に一連で活動したというような傾向は認められないと判断しております。
0:31:53	あと合わせて、佐々行木断層田井東部と連動考慮している佐々並木断層体制部の変位量分布を右下の方に示しております。
0:32:02	この笹波断層西部の変位量は、オレンジ色の丸で示しておりますけれども、まなんセンターの方では変位が認められず、北東方向に向かって変位量が大きくなっておりまして、
0:32:12	笹並木断層田井東部との境界では連続するような傾向にあることから、一連で活動した可能性があるというふうに判断をしております。
0:32:23	次の 509 ページの方には、笹並木断層での分岐断層が、ミラウ海士岬沖断層体と笹波沖断層大東部のどちらに傾向が近いかということを確認するために、
0:32:36	平均変位速度を用いて比較を行いました。
0:32:40	比較を行った結果、笹行木断層体の分岐断層の変位速度は、海士岬沖断層というよりも、笹波沖断層体東部に近い傾向を示していると。
0:32:50	ということが確認されまして、笹波断層隊等の活動に伴い付随的に動いた。
0:32:56	というふうに考えております。
0:32:59	これらを追加したデータを踏まえまして、海士岬海士岬沖断層材と笹波沖断層大東部の連動につきましても、連動は考慮しないというふうに改めて評価を行っております。
0:33:11	次に 514 ページには、今回追加しました。
0:33:16	笹波沖断層隊、
0:33:18	アース線羽咋沖西撓曲と笹行木断層ザイゼン町の連動の検討結果、
0:33:24	532 ページの方には、佐貫断層体全長と計 13K04 の連動の検討結果を示しておりますけれども、
0:33:33	これらの組み合わせいずれも、近接する断層の傾斜方向が異なっておりまして、地下深部で断層面が離れていく関係にあります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:41	また地質構造の観点からも、連動するようなデータが認められないということを踏まえまして、いずれのケースも両断層の連動は考慮しないというふうな評価を行っております。
0:33:53	次に 540 ページの方をお願いいたします。
0:34:00	こちら笹波沖断層泰然町と、能登半島北部沿岸ヤギ断層体の連動の検討結果になります。
0:34:07	すいませんこのページでちょっと誤字の修正がございまして、下の黄色四角の最後の行に、
0:34:13	及び海士岬沖断層体には余震活動が認められないとなっておりますけれどもこちら猿山沖セグメントの間違いとなっております。申し訳ありません。
0:34:23	それでは前回からの変更点について説明させていただきます。
0:34:28	まずコメントバイト 56 番、コメントの 56 番の回答としまして、能登半島北部沿岸域断層体の屈曲部についても、今回震源断層として考慮することとしまして、
0:34:40	前回、根拠データとして用いていた離隔距離に関するデータは用いておりません。
0:34:46	また、さらに追加したデータといたしましては、
0:34:49	544 ページの方に、B案層基底の変位量分布、
0:34:53	2 を追加しております。
0:34:58	こちら 544 ページ、変位量分布ですけれども、笹波沖断層田井東部は先ほども、
0:35:04	お示ししていますが、北東方向に大きくなる傾向にありまして、
0:35:09	海域部で大体 30 メートルから 60 メートル、
0:35:12	の変位量が認められております。
0:35:14	また陸域部の端部にかけては、2007 の山等地震の知見等を踏まえると、端部にかけて収束するというふうに推定されます。
0:35:23	一方猿山沖セグメントの変位量分布は、佐貫断層体東部と同走向の区間は大体 10 メートルから 40 メートルの区間で、両端部で小さくなるような傾向にあります。
0:35:36	ただ屈曲部であるN1 測線とN2 測線につきましての、
0:35:40	は変位量が大きな値を示しておりますが、
0:35:43	これは断層末端の屈曲部が、右横ずれ断層の末端の特徴として、逆断層成分の変位が大きくなっていることが影響しているものと推定されます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:55	これを踏まえすと笹行木断層田井東部と猿山沖セグメントの変位量分布の傾向は異なり、
0:36:01	両断層が少なくとも後期更新世以降で、一連で活動した傾向は認められないというふうに判断をしております。
0:36:08	すいませんこのページの3マル目にですね、今ほどご説明した猿山沖セグメントの変位量に関する解釈を記載しているんですけども、
0:36:16	その中で、断層末端の屈曲は、震源断層ではなく、二次的に形成されたものと、
0:36:22	いうふうに書いておまして、これ、こちら、今回この屈曲についても震源断層として考慮するとしたコメント回答と、ちょっと一見矛盾するような表現となっておりますので、
0:36:32	ちょっとこちらについては記載を修正させさせていただきたいと思っております。
0:36:37	また545ページにも同様な記載があるので、こちらも併せて修正させていただきたいと思っております。
0:36:44	以上の追加データ踏まえてこちらの笹並木断層田井東部と猿山セグメントの連動につきましても改めて、連動は考慮しないというふうな評価をしております。
0:36:56	次に、553ページの方には、今回追加した前野瀬東方断層体とされ海士岬北方沖断層体の連断層の連動の検討結果、
0:37:07	562ページの方には、同じく前野瀬東方断層体と、能登半島北部沿岸域断層体の連動の検討結果、
0:37:16	続いて572ページの方には、富山湾西側海域断層と陸域のトナミ部屋断層田井西部の連動の検討結果を示しております。
0:37:26	こちらはいずれのケースも、海上音波探査、文献調査の結果から、両断層の断層面の傾斜方向は同じなのですが、
0:37:34	地形データや地質構造、重力異常分布の観点から、連動しないことを示唆するデータを確認しております。
0:37:42	さらにこの富山湾西側海域断層と外山と波平断層財政部の間につきましては、
0:37:49	都市圏活断層図によって、北西側隆起の高岡断層が実施されておりますけれども、この高岡断層は、両断層とは構造形態が異なると。
0:37:59	いうふうに判断できることを踏まえて、この外山ニシカワ甲斐断層とナミヘイや断層財政部の連動は考慮しないというような評価を行っております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:11	次に 580 ページの方をお願いいたします。
0:38:17	補助陸域の栗葉山断層、
0:38:19	Iと魚津断層材の連動の検討結果になりますけれども、
0:38:23	こちら文献調査の結果から、断層面の傾斜方向が異なりまして、地下深部で断層面が離れていくというふうな関係であるということが、確認できまして、地質構造や重力異常分布の観点も踏まえても、
0:38:36	呉葉山断層体と大津断層体の連動を考慮しないというような評価を行っております。
0:38:43	585 ページの方には大津断層台東能登半島東方沖の断層の連動の検討結果を示しておりますが、こちら前回の会合から、
0:38:53	評価に変更はなく、連動を考慮するという評価結果に、
0:38:58	なっております。
0:39:00	最後に 590 ページの方をお願いいたします。
0:39:04	こちら計Z6 等イシカワ県西方沖の断層の連動の検討結果になります。
0:39:09	文献調査の結果から、Kz6 と石川県西方沖の断層は、断層面の傾斜法が異なりまして、地下深部で断層面が近づく関係、いわゆるV字の関係になります。
0:39:20	593 ページの方で、先ほどの福浦と壁等の、
0:39:25	検討と同様に、教育関係の有無の検討を行っておりまして、両断層やろは共役断層ではないと。
0:39:32	判断されることから、震源断層として同時に活動することはないというふうに判断をしております。
0:39:38	さらに地質構造ですとか、構造形態、分布する隆起が違うということを踏まえまして、このケースにつきましても連動を考慮しないというふうな評価を行っております。
0:39:49	追加したエンドウ評価結果及び変更点の説明は以上となります。
0:39:53	595 ページ以降には断層評価のまとめをつけておりますが、今回一部陸域の断層の説明を行っているので、596 ページから 598 ページには周辺陸域の断層のまとめも今回追加をしております。
0:40:07	本資料の説明は以上となります。
0:40:10	すいません続きましてちょっと画面資料を、
0:40:15	ちょっと紙画面に移させていただいて先ほど説明しました、連動の検討結果を再整理した表につきまして、調査方法ごとに整理する案を作成しましたので、
0:40:28	こちらについてご説明させていただきます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:32	今画面に映しさせていただいているのが、海士岬沖断層台東羽咋沖東撓曲の連動の検討結果を再整理したものになります。
0:40:42	まず表を大きく、地形及び地質構造と断層活動履歴に関する項目に分けております。
0:40:49	地形及び地質構造の業務につきましては、さらに文献調査等、地球物理学的調査に分けております。
0:40:57	で、地球物理学という調査については、このケースの場合は、さらに地質構造と重力異常分布に細分化を行っております。
0:41:07	地質構造につきましては、海域の断層につきましては主に海上音波探査の結果で整理を行っております、
0:41:14	海士岬沖断層体と羽咋沖東撓曲につきましては、
0:41:18	このハの字の関係にある断層ですので、さらにこのバックスラストがないかと。
0:41:23	というような検討を行っております。
0:41:27	この白枠の調査結果をもとに、下の黄色枠の総合評価の行で、考慮する項目ごとに検討結果を整理しまして、最後の行の方の評価結果の結論を導くと。
0:41:38	いうふうな構成を見、構成に見直しております。
0:41:42	またもう一つの例としまして、笹行木断層泰然町と、能登半島北部沿岸域断層体の連動の検討結果も作成をしました。
0:41:52	こちら大きな区分としましては先ほどのものと変わりませんけれども、このケースの場合は、比抵抗による調査も行っております、こちらは地球物理学的、
0:42:02	調査で整理をしておりますし、
0:42:05	またこちら、笹波沖断層田井東部との検討を行っておりますので、2007年能登半島地震の知見に関する調査につきましては、断層の活動履歴として、再来間隔ですとか余震活動として整理を行っております。
0:42:19	資料の説明は以上となります。
0:42:24	ご説明ありがとうございました。
0:42:26	そしたら、規制庁の方から事実確認をさせていただきたいと思います。
0:42:34	まず最初に個別の断層評価のところ、
0:42:40	全般なんですけども、
0:42:43	前回先行してノダの方から、
0:42:47	各
0:42:48	既往文献断層について、国交省 2017 のトレースを、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:53	入れるようにお願いしてあったと思いますけどこの作業の方は進めていただいているということでよろしいでしょうか。
0:43:01	北陸電力石田です。はい。今の故障が 2014 のトレースが入っていないですね、笹波沖断層隊ですとか海士岬沖断層田井一東郷断層隊等が該当しますけれども、こちらについては今文献調査のところに、
0:43:16	そのトレースも、加筆する作業を進めております。以上です。はい。よろしく申し上げます。
0:43:22	それともう一つ海田の方から、
0:43:27	ですね、海士岬沖断層体の北端部の説明が十分じゃないんで、
0:43:34	まずそのところをきちっと、
0:43:38	説明していただくという。
0:43:40	ことをお願いしてあったと思うんですけどもそのときに、
0:43:44	この
0:43:47	北端、海士岬沖断層の北端に関する
0:43:52	議論がですね。
0:43:54	分岐断層のところにあったりとかあちこちあったりするんで、それを
0:44:01	全部海士岬沖断層体の中に集約して説明していただくということをお願いしてあったと思うんですけども、
0:44:09	この点はよろしいでしょうか。
0:44:13	北陸電力一緒です。
0:44:14	はい。今の北東たに関するコメント回答としまして 500 ページから 500、
0:44:21	6 ページまでに資料を、にわたってつくつ作成させていただきましたけれども、これについても、北端調査、いわゆるハマグチの東端調査の 120、
0:44:32	3 ページ以降に移動して、整理をさせていただきたいと思っております。
0:44:38	さらにですね 509 ページの方に、海士岬
0:44:44	アート笹波沖断層体の分岐断層と考えている区間についてが、海士岬沖断層、我々が海士岬沖断層体で評価している区間に近いか笹波に、
0:44:54	を評価しているかに近いかというような検討を、変位量は平均変位速度の方から検討を行っておりますので、
0:45:01	これにつきましても、これに付随するデータの、
0:45:05	とも言えますので、そういった整理をしたいと考えております。以上です。
0:45:10	はい。よろしく申し上げます。
0:45:13	これとあわせてですね、今説明の並びがですね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:18	笹波
0:45:20	沖断層体、それから次に浜三崎沖断層体という流れになってるんですけども、
0:45:26	最初にですね海士岬を沖断層体を説明していただいた後に、
0:45:32	ここで
0:45:34	負担を
0:45:35	ちゃんと説明していただいた後に笹波
0:45:39	沖断層体という流れでお願いしたいんですけど。
0:45:42	よろしいでしょうか。
0:45:44	順番を入れ替えていただきたいと。
0:45:48	北陸電力1社です。
0:45:50	承知しました。まず、当間章番号的には多分2.4.1が海士岬沖断層隊としてまずこちらで、
0:45:58	北東短をしっかり説明した後に、その2.4.2として笹波断層隊を説明すると、そういった構成変更という趣旨でよろしいでしょうか。
0:46:09	はい。その方がちょっとスツと入っていきたい。やすいと思います。
0:46:14	よろしくお願いします。
0:46:17	ですね、あと全般でいうと、
0:46:21	この個別の断層、
0:46:23	の説明がですね、かなり分厚い、頑張っていたいたんですけども、
0:46:28	これでもう少しスリム化ってできないですかね。
0:46:32	そんなにいくつかやり方はあると思うんですけどもそんなに大きな論点じゃないものを、
0:46:38	補足説明資料に持っていかとかですね。
0:46:42	阿藤30キロ以遠と以内で、ちょっとメリハリをつけるとかですね。
0:46:48	ちょっと、
0:46:49	検討していただけないですかね。
0:46:53	はい。グループ電力の野原です。5月の審査会合のときには、敷地への影響が小さいもの、そういったものを補足資料につけておりました。今回
0:47:04	3社の連動に関連する断層もあるので全部本資料に持ってきましたが、
0:47:09	今のスリム化という観点、わかりましたので、
0:47:13	改めて補足資料に持っていくなど、構成につきましては、
0:47:18	検討させていただきたいと思います。
0:47:20	以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:22	ちょっとお手数かけてすみませんけどよろしく願います。
0:47:26	他に個別の断層で全般について何か規制庁の方からコメントあり。
0:48:04	個別の断層体について、事実確認させていただきたいと思います。
0:48:17	笹波沖断層体ですね、
0:48:28	これは
0:48:32	笹波沖断層体と奄美沖、浜、海士岬沖断層体ちょっと両方。
0:48:38	についてちょっとコメントさせていただきたいと思い
0:48:46	この前回の審査会合ですね、
0:48:51	この分岐断層がですね、事業者側の分岐断層、
0:48:55	が、
0:48:59	笹波沖断層体に属するものだというふうに主張されてるんですけども、
0:49:04	前科いいの審査会合で、
0:49:10	奄美を海士岬沖断層体から、笹波沖断層、田井まで、探査記録を並べてですね。
0:49:17	それで自立構造の連続性の有無について検討するように、求めていたところですけども、
0:49:24	それについてはこれ、この資料に示してますかね。
0:49:38	北陸電力石田です。
0:49:41	今ほどの音波探査の記録につきましては、
0:49:46	先ほどの 500 ページから、
0:49:51	500、
0:49:52	6 ページにかけてが、
0:49:55	いわゆる笹野めぐみ断層体の分岐断層の部分と、海士岬沖断層体の部分の、どういうふうに見えるかといった記録の比較になりますし、
0:50:07	実際にこの笹並木断層、我々が佐貫断層体の本体と考えている部分と、海士岬沖断層体との間の音波探査としましては 510 ページの方にお示しをしております。
0:50:19	ただいまの連動のところにもこの整理をさせていただいているので、実際は、
0:50:25	今ほどの議論を踏まえると、この 2 章の方に、この
0:50:31	データを整理して、それぞれの断層区間をきちっと決定するというような流れに修正したいと考えています。以上です。はい。500 ページとか 501 ページに、
0:50:46	と事業者が、
0:50:48	笹波沖断層体としているところの反射断面は示されているんですけども

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:54	その
0:50:57	来当初北部区間としていた箇所を分岐断層としたというところを説明するときですね。
0:51:04	さらに補
0:51:07	キタノ法にかけてですね分岐断層と、
0:51:10	それから分岐断層の北端から、
0:51:13	笹波を笹波沖断層対東郷にかけての、
0:51:18	反射断面についても、示していき
0:51:20	いただきたいと思うんですけどもいかがでしょうか。
0:51:24	北陸電力1社です。
0:51:26	承知しました。今、この500ページ以降には、その501ページにその
0:51:32	海士岬沖断層隊の北東を担当しましてL11-1測線を示しておりますけれども、さらに北の、我々が分岐断層と評価している区間、
0:51:44	につきましても、音波探査記録を示しまして、
0:51:49	いわゆる構造形態ですね構造形態の違いがより明確にわかるような資料構成に趣旨起こしてまず資料を追加して、より明確に違うと。
0:52:00	いうところがわかるような資料としたいと思います。以上です。
0:52:03	よろしくお願いします。
0:52:05	それからですね、500、
0:52:10	ノダですけど、
0:52:11	と今のところ、宮脇さんからの
0:52:16	事実確認と、
0:52:17	石田さんからの回答で多分大丈夫だと思うんですけど、念のため、500ページのところ、
0:52:23	をベースに今話をされていて、ここでは論点が二つあると我々は認識しています。一つは、文科省ほか、
0:52:34	もう踏まえて、踏まえた北東短の位置がどこかということ。
0:52:39	二つ目は、そういったことも踏まえて、北東短を確定した上で、それが北部にある笹波沖断層田井東部の、
0:52:51	分岐断層との関係ですね、連動するのかもしれないのかという二つの論点があって、
0:52:59	後者の方は、今、500ページの、
0:53:05	図ですかね、ものだと、北東短までしか示されていないんで、北川も、これというのはこれと同じようなコンセプトで、音波探査記録を連続して見せて欲しいと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:18	その趣旨は、
0:53:21	傾斜方向もそうですし、地質構造がどういった形で、音波探査記録で確認できるかと。
0:53:29	ということですので、多分大丈夫だと思うんですけど念のためお伝えしておきます。整理した上でお伝えしておきます。以上です。
0:53:39	はい。北陸電力の野原です。別に今のご指摘及びご趣旨改めて理解させていただきましたし、
0:53:48	衛藤北
0:53:51	途中までしか載せてませんが、もっと北のほうまで載せまして、
0:53:56	分岐断層、佐田宮木断層での分岐断層としているものの形態の連続性、
0:54:02	というものをしっかり示せるような資料構成としたいと思います。
0:54:06	はい。以上です。
0:54:08	ノダですけどハラさんありがとうございます。趣旨、多分ご理解できてるかと思えますんで、また次回以降ヒアリングで、ヒアリング資料として出してもらって確認させていただければと思います。ありがとうございます。
0:54:27	規制庁の宮脇です。
0:54:29	508 ページに、AとB湾層基底の変位量分布図が示されてるんですけども、この左側ですね。
0:54:38	ところ 0 には、
0:54:43	分岐断層が入ってないんですけど、分岐断層の情報を入れることはできないんですか。
0:54:53	北陸電力 1 社です。
0:54:55	こちら、508 ページの方は、AとB湾層基底の変位量をベースに、
0:55:02	作成しております。笹波沖断層の分岐断層については、例えばですけども、
0:55:13	499 ページに事例示しておりますけれども、この笹波沖断層THAIの分岐断層というのは、B層が分布していませんね、D湾層の上ですぐA層というような状況になっておりまして、
0:55:26	この直接 508 ページに示すような、B案ソウノ規定の変位量分布に、綺麗に落とすことができないということで、508 ページには落としておりません。その代わりとしまして 509 ページの方に、
0:55:39	平均変位速度に変換を行いまして、それぞれの海士岬沖断層体、笹行木断層体の分岐断層及び笹野ウメキ断層の本体と三つに分けて、比較を行っております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:52	で、ソウノ、A、
0:55:55	規定の変移同士で比べるというやり方もあるんですけども、2a層の基底の変位同士で比べようと思いますと、次、海士岬沖断層体の本体の方が、
0:56:04	A層の層厚が薄くてですねこの変位量の計測が困難であるということから、ちょっと平均変位速度に換算して比較を行っているという背景がございます。以上です。
0:56:18	そうで
0:56:20	平均速度どう見積もってる。
0:56:23	これってへ。そう。参考。
0:56:26	B案層の基底の分布図の中に、
0:56:30	参考。
0:56:31	として、
0:56:32	ワン層の変位量、分岐断層についてはですね、
0:56:38	入れるということは可能なんです。
0:56:41	そういった整理でよければ、落とすことができます。
0:56:46	多分それよりも遠慮は大きいということになるかと思うんでちょっと参考ですけども、入れていただけないでしょう。
0:56:55	北陸電力石田です。承知しました。
0:56:57	はい。よろしくお願いします。
0:57:03	規制庁野田ですけど今の 508 ページで 2 点、1 点目は、
0:57:09	石田さんのご説明わかりましたアノ 499 ページにある通り、分岐断層については、AとB湾層が欠損しているんで、ここでは、
0:57:20	変位量が載せられませんというのはわかったんですけど、図 1 なんか 509 ページだと三つ比較されてるんで、なんでB、508 ページの方は、分岐断層がないんだろうってなってしまって、
0:57:32	さっき石田さんご説明いただいたことをちょっと、この 100508 ページどっか注書きか何かで入れてもらえると、そういう、
0:57:41	理解が進むんじゃないかなと思うのが 1 点と、
0:57:45	あと、2 点目は右上の箱書きの最後のところなんですけど、
0:57:50	以上のことから、があって、
0:57:53	連続して北斗方向に大きくごめん変位量分布は、
0:57:59	連続して北東方向に大きくなる傾向にある、あり一連で活動した可能性はある。
0:58:08	こういう場合は、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:10	あるんですか。
0:58:13	エンドウして、傾向にあり、
0:58:16	いいのか。
0:58:18	北陸電力社です。
0:58:20	一般的に、断層の変位量分布は、端部
0:58:25	付近が小さくなって中央付近が大きくなるようなヤマガタの形状を示すというふうに考えられます。
0:58:31	そうしますと、まず、海士岬沖断層体だけで見ますと、ちょっと中間部があるのにちょっとあれですけども南部から中間部にかけて、ちょっといびつであります。ヤマガタを示していると。
0:58:43	佐貫断層体につきましては、頭部だけを見ますと赤点だけを見ますとまだ変位が終わってないように見えまして、笹野、右側の図で笹目木田の体制分も含めて考えると、
0:58:57	笹行木断層体制部が、やっぱの方から徐々に上がっていきまして、笹波断層田井東部につきましてはこの後陸域の方に延びていきますので、
0:59:07	陸域については、2007年能登半島地震の知見、直接変位量が見れるデータがないので、推定にはなりますけれども、
0:59:16	例えば滑り量分布等を見ますとやはり陸域の方に行くと小さくなったりするような知見もございますのでおそらく、この後、下がっていく傾向にあるであろうというふうに考えております。
0:59:26	そうすると笹並木断層体の西部と東部だけで、
0:59:30	ヤマガタができるということで、
0:59:32	連続して北東方向に大きくなる傾向で一連で活動した可能性があるというように解釈をさせていただきます。以上です。
0:59:42	ノダですけど、
0:59:43	伊佐さん、ご説明ありがとうございました。だからわかったヤマガタの創価左側だけってことか。はい。衛藤。
0:59:51	とりあえずこれは事実確認できましたありがとうございました。
1:00:01	規制庁の海田です。すいませんまたちょっとさっきの500ページのところに戻っていただいて、
1:00:08	これさっきは
1:00:10	範囲を広げて、
1:00:12	くださいというところだったと思いますけどちょっとこの、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:16	記載についてもちょっとよくわからないところがあるので確認をさせていただきます。
1:00:23	と、
1:00:27	ここはよく見たら二つの構造があるんだってところを、多分説明されようとしていると思うんですけども、
1:00:38	それ、結構大事な話なので、
1:00:42	もうちょっとこう、こういって二つの構造に分けられるんだってところが、
1:00:49	書いてあると思うんですけども、ちょっと
1:00:54	もう少しアノ会、
1:00:57	詳しくといいますか、書いていただきたいんですね。
1:01:01	例えば、
1:01:03	5、No.5 測線は、
1:01:07	海士岬と分岐だ分岐断層が両方ありますということで、
1:01:13	かなり変位量が大きな撓曲みたいなやつが海士岬。
1:01:19	そのすぐ横に、
1:01:22	よく見て、わからないんですけど
1:01:25	ちょっと小さい段差があるそれが分岐断層なんでその二つがあるんだってということなんですけど。
1:01:33	例えばそのすぐ横の 5.5 なんかっていうのは、これはもう分岐断層ありませんって場所だと思うんですけど、
1:01:42	やっぱり見ようによっては当局があります。そしてこのすぐ、
1:01:47	何、右側にD2 層の上面には、同じように段差みたいなんが書いてありまして、
1:01:56	当然このナンバー5 測線の方だってもう、音響基盤面の中なんでその断層面自体が見えてるわけではない。
1:02:03	ということで、
1:02:05	その 5.5 とNo.5 の違いっていうのも、どんな違いがあるのかっていうのがよくわからなくて、わからなくてですね。
1:02:14	ここ、例えば 5 だったらもうこんな違い、こういうふうに見えて二つの構造がありますとか、
1:02:22	そのあたりも今後この絵の、
1:02:25	この辺のページ以降で説明される中で、詳しくの二つの構造というのはこういうふうに見て認定したってものを、
1:02:34	追加で書いていただきたいんですけども。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:39	そのあたり、よろしいですかいろいろ書いてあるんでまとめればそういうことなんかもかもしれませんけど今申し上げたような観点で、ちょっとお願いしたいんですけど、よろしいですか。
1:02:51	はい。北陸電力石田です。
1:02:54	相川さんがおっしゃる趣旨、理解しました。各測線の解釈はその後 101 ページ以降に記載されているんですけども、今 500 ページ 1 ページにちょっとまとめようとした。
1:03:04	ところもありまして、ちょっと、
1:03:06	記載の充実化を図っていきたいと思っております。
1:03:10	実際、
1:03:11	おっしゃるようにこのナンバー5 測線の方では、いわゆる撓曲を変形の大きな撓曲と。
1:03:18	微細な変位の、
1:03:20	断層構造の二つが見えている。さらに、そのすぐ南方は、右上のL15 測線になるんですけども、
1:03:29	こちらL15 測線のブーマーの測線を見ると、
1:03:33	震度の関係もありまして、いわゆるちょっと微細な変形の断層しか見えていないと。
1:03:40	で、さらにその南方に行きますとNo. 5.5 測線の当社のスパーカーに行きまして、そうしていきますと、
1:03:48	当局は見えるんですけども、その微細な変変異の伴う断層が見当たらないと。
1:03:54	いうところで、
1:03:56	2 測線等のリース、一つの構造がどんどん一つの構造になっていっていると。
1:04:01	いうところが見えてい。
1:04:03	想定されています。
1:04:05	実際、この
1:04:07	笹波の分岐断層と考えている微細な変位というのは、先ほども次、499 ページありましたけれども、D層とソウノそのB層がない状態でも、本来推定できる区間になりますので、
1:04:21	ナンバー5.5 測線のように、技術ソウノ上にすぐ映像が載っていたとしても、推定できると考えておりまして、
1:04:28	そこでも読めておりませんので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:33	ここでは、そういった微細な断層構造ってのはなくなっているというふう に我々評価しております。こういった説明がわかるような、資料をちょっ と、
1:04:42	さらに、500 ページの、
1:04:45	プラスで、さらに、この
1:04:47	測線同士を比較した解釈というような資料を追加して、今のような、ご説 明がわかるような資料にしたいと思います。以上です。
1:04:57	はい。北陸電力の吉田です。今ほどのお話、非常に重要なポイントと 我々理解しておりますので、
1:05:05	今西田が説明した通り、
1:05:08	エリアはですね、スパーカーでもですね深いところがあるスパーカー で、浅いところがあるスパーカー及びブーマーというのが、測線が充 実しておりますので、
1:05:19	その上で、産総研さんが書いた図表と我々のユフの線が違いますの で、彼らがどこを読んで、我々が彼らが読んでないどこ読んだのかって いうのを、
1:05:30	しっかりこの 1 ページにツツミ、詰め込みますが、しっかりページをもっと 使ってですね、しっかりその辺は説明したいと思います。以上です。
1:05:41	海田です。わかりましたじゃ、その辺りも対対カトウして、わかりやすくし ていただきたいのでよろしくお願いします。
1:05:50	すいません北陸電力、北です。こちらから 1 点ちょっと確認よろしいでし ょうか。
1:05:57	はい、どうぞ。
1:05:59	はい。先ほどの 508 ページ。
1:06:05	508 ページの左下のグラフに、
1:06:09	笹波沖断層THAIの分岐断層の変位量、ここはB湾層がないので、
1:06:15	A層の変位量を参考として入れるようにというコメントがあったかと思 います。
1:06:21	一方で先ほど志田からも説明した通り、
1:06:24	こちらの分岐断層につきましては、B岩相がないので、
1:06:28	509 ページで、平均変位速度という形で統一的な観点、統一しまして、 佐貫断層本体、分岐断層、
1:06:39	ミュキ断層、
1:06:40	ミュキ、海士岬沖断層大を統一的な観点で示したのが 509 ページにな ります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:47	その説明を 108 ページに、
1:06:49	追記、
1:06:53	追及すれば、
1:06:55	いいのかその説明も追記した上でやはり 508 ページには、そう。
1:07:00	変位量も参考で示した方がいいのかちょっとそこだけちょっと確認させていたきたいなと思いますが、いかがでしょうか。
1:07:19	野原さんコメントありがとうございます。ちょっと今相談してます。すみませんちょっとお待ちいただければと思います。
1:07:26	はいすみませんよろしく申し上げます。
1:08:21	説明だけでプロットの方は結構です。
1:08:25	失礼しました。
1:08:27	北陸電力牟田です。わかりました。ありがとうございます。解釈の方、108 ページの方にしっかり書かせていたきたいと思います。
1:08:36	はい、ありがとうございます。
1:08:38	野原さん確認ありがとうございます。
1:08:46	規制庁の大井です。
1:08:49	ちょっとこの点なんですけど、先ほど 500、500 ページとかで、
1:08:54	海士岬沖断層、
1:08:58	田井登坂のミユキ断層体の間違いというかそういうのの議論がありました、
1:09:02	これ一つ、御社が考えてる理由としては撓曲構造と、
1:09:09	片や、
1:09:10	断層になってるってところの違があると思うんですが、
1:09:14	これ一、
1:09:15	ていうのは次、御社どの程度その構造の違っていうのは、
1:09:21	何ていうか、断層が違うんだっていうような、
1:09:24	ものの 1 根拠の根拠とする根拠の度合っていうかそれはどの程度なんでしょうか。
1:09:30	ちょっとすみません確認まず確認させてください。
1:09:34	北陸電力石田です。
1:09:37	檀、いわゆる我々断層構造と撓曲構造。
1:09:41	何で構造形態が違うっていうだけで分けている、一つそれは根拠としてもちろん使っている、
1:09:49	あるんですけれども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:50	それプラスアルファで、先ほどもありました 509 ページにありますような、平均変位速度で、いわゆる動き方の違いというところで、よりイワサ波の方に近いということですか、そもそも、以前、
1:10:06	Aといたしまして、分岐断層と評価。
1:10:09	した。
1:10:10	きっかけがこの 83 ページ、笹並木断層体の個別評価のところ。
1:10:17	の方に記載させていただいておりますけれども、
1:10:23	83 ページのラインB測線という
1:10:27	能登半島地震の際に、地震研東京大学の地震元で行われましたエアガン測線を見ますと、この佐貫断層田井東部と笹行木断層体の分岐断層にあたる部分が、
1:10:40	深部から、
1:10:42	分岐したような形状を示している、ということを踏まえて、分岐断層であるというふうな評価を行っております。
1:10:51	以上です。
1:10:53	はい。ご説明ありがとうございました。規制庁の大井です。今三つをさおっしゃられた余震分布と、
1:11:00	この構造の違いと、この変位量の
1:11:04	そういうところでこの辺を解釈しようとされてるっていうことは、説明はわかりました。一方で今、その構造の違いっていうところでちょっとお聞きしたいんですけど。
1:11:15	笹波沖断層体の東部と西部っていう要するに西部のところ、結構撓曲構造があったり、断層構造があったりというふうに、
1:11:25	部分があるんですけど、そこは今現在一連として考えられている、要するにその辺って構造の、
1:11:32	千賀伊井はその辺どう、浅見興津の西部とかの方はどんなふうに分かちやられてるんかちょっと私もちょっとあまり、
1:11:43	しっかり音響をみてるわけじゃなくて文章上でこう、
1:11:46	見るとそういうふうなところがあるのかなと思ったんですけど。
1:11:50	すいません、図でいうと例えば 500、すいません。508 ページのところ、左上の図でたぬき断層体制部が書かれてございますが、
1:12:01	そこのこの丸みを帯びた
1:12:04	すいませんに丸が書かれた撓曲構造で、
1:12:09	東部の方に行くと断層、
1:12:12	構造になってんですけどそれでも何かこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:15	何て言うんすかねこう違うものがあるのかなというふうに思ったんですけど、ここは、こことして
1:12:21	一連とされてるっていうふうに、
1:12:23	これはもちろん企業評価でもそうなのかもしれないんで、
1:12:27	そうなのかもしれないんですけど、片やなんか近くの断層では結構構造を意識して違いをつけてるのに対して、佐貫断層体、
1:12:35	東部西部については何かそういうふうな、どのように解釈されてるのかなっていうのをちょっと教えていただきたいんですけど。
1:12:43	はい。北陸電力の野原です。
1:12:45	我々基本的に断層のトレースが連続していれば、一連のものとしてのルール、
1:12:53	ウノが原則だと思っております。
1:12:55	その中で笹並木断層田井東部と西部といいますのは、今ほど大井さんおっしゃいますように、
1:13:00	東部は、断層の形態で西部の方は撓曲形態が特徴という違いがございます。
1:13:08	そういったことから我々もともと個別断層としては別々に評価しておりました。
1:13:12	で、
1:13:13	ただ最終的にこれ連動一つのものとして評価しておりますが、
1:13:18	こういった断層、
1:13:20	衛藤東部の方が隆起体の
1:13:23	うちに、
1:13:24	分布しております。
1:13:25	それが一方、佐賀並木断層で整備に行きますと、
1:13:28	こちらの堆積層が堆積しておりまして、おそらくベースソーダもっと深いところに分布しているものと思われます。
1:13:35	そういったことから、音波探査での見方が、おそらく深いところには、酒巻断層大東部と同じような断層形態のものがあるんでしょうが、
1:13:43	堆積層に隠れて音波探査で見えているところは撓曲構造になっていると。
1:13:48	こういったことから、構造形態は違うんですが、これらは同一の断層というふうに、我々は当時の断層といいますか、エンドウを評価しました。
1:14:00	一方笹波と海士岬につきましては、
1:14:03	こちらどちらも隆起体の縁或いは領域の中にある。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:08	比較的環境の見たところにある断層、
1:14:11	の比較になっております。
1:14:13	そういったことで、佐貫断層体、
1:14:15	の分岐断層とアマノウエキ断層体こちら撓曲構造に見えておりますが、
1:14:20	比較的似たような環境での見え方の違いということから我々区別しております。そして何よりも
1:14:27	佐貫断層体が分岐断層であるという文献があると。
1:14:32	こういったもし文献がなければ、こういった検討を行ったかどうかわかりませんが、
1:14:36	やはり佐藤先生の論文でそういった知見があると。
1:14:40	ということから、そういったことも頭に入れて我々こういった検討を行って参りました。
1:14:46	そういったことがちょっとわかるような資料構成に記載を、
1:14:52	していきたいなというふうに思っております。
1:14:54	以上です。
1:14:58	はい。規制庁の大井ですご説明ありがとうございます。
1:15:01	はい。わかりました。わかりましたというか笹並木断層体で少しそういう経緯だったり、
1:15:07	あとアノ留北井というそういうものを使っての解釈っていうのも海士岬沖断層隊との違いということであると。
1:15:16	いうふうに思いますので、
1:15:18	その辺も少しその構造後構造ん。
1:15:22	構造の違い。
1:15:24	というところでの詳細な説明っていうのがあれば、
1:15:28	す。
1:15:29	どっちの部分もあるのかなと思います。
1:15:32	ので、すいません御説明の向上、説明性の説明の追記をお願いいたします。
1:15:38	以上です。
1:15:45	規制庁の海田です今の話っていうかそう。もう関係して私の先ほど申し上げた、
1:15:53	ともこととも関係するんですけれども、
1:15:56	どこでもいいんですけど、もう例えば、
1:16:00	501 ページとかの方がちょっと見やすい。
1:16:05	かなと思うんですが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:06	今、501 ページだったら、L11-1、ブーマーということで今書いてあるんですけど、
1:16:14	そのすぐ横に何か、
1:16:16	灰色の字でN10Wって書いてありまして、
1:16:20	これエアガンの
1:16:23	記録のはずでこれも一応、
1:16:25	両方の 2 本の断層を横断してエアガンなので、
1:16:30	深いところを見せてるはずで、今のお話だと、当局はこうですね深いところではって話もあったと思います。
1:16:42	エアガンの記録っていうのは前回の
1:16:45	データ集とかに入ってますで一応そそいうものもちょっと見てはみたんですけど、
1:16:52	ちょっとその辺も踏まえてですね今ある、ここに、
1:16:57	スパーカーブーマーを中心にされてますけれども、深いところまで見れば、二つこう断層が併走してるようなのがわかるんであればそういったものも、
1:17:08	つけていただいて、やった方がわかりやすいんですけども、
1:17:13	エアガンの記録もあるんだしたら、そこも一緒に説明いただけますでしょうか。
1:17:29	北陸電力 1 社です。
1:17:31	多田さんの趣旨わかりました今野伸部、今スパーカー一部が、を中心に整理させていただいてますけれども、これにアガワも加えまして、今ほどの構造形態の違いですね。
1:17:43	についての記載の充実を図りたいと思います。以上です。
1:17:49	はい金田ですよろしく申し上げます。
1:17:58	規制庁の宮脇です。
1:17:59	それではですね後、
1:18:03	小断層群ですね、これ、
1:18:18	海田です。すいません水今笹波沖と海士岬両方だということでちょっと笹波沖の方の確認をしたいと思います。
1:18:32	117 ページをお願いします。
1:18:35	これコメント回答の、
1:18:38	一つで、
1:18:43	117 じゃなかった水 110。
1:18:49	すいません 100、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:52	105 ページでした。すみません、ページ間違えて、
1:19:01	これはコメント回答で笹波沖断層体制部の一番端部のところの、
1:19:09	話っていることでこれ口頭でも説明あったと思うんですけどこのすり抜けが、
1:19:14	ないのかというところで、そこ、斜めに、
1:19:19	月ってるというものが
1:19:23	あるのでそれを確認していますと。
1:19:26	ということだったと思います。
1:19:30	等、
1:19:32	ここにあるのが、N115 っていうのと、
1:19:38	N9W っていうのが、
1:19:41	その次の、
1:19:45	次の
1:19:49	ページですかね、506 ページ。
1:19:53	で、この丸で示してあるところっていうのは、
1:20:01	次ページ、丸で示した変ニシウチの変形っていうのが、
1:20:06	書いてはあるんですけども、
1:20:10	これ
1:20:11	105 ページでいうともうかなりピンポイントでこうマルがポツンって書いてあるんですけど、
1:20:17	この 106 ページだと確かに、
1:20:20	傾斜のようなものあるんですけども、それなりの幅を持った、これも多分、エアガンですね。
1:20:30	幅を持ったもので、
1:20:33	この矢印とかそのピンポイントのこの赤い丸っていうのはどういうふうな視点でここですっていうふうにしたのかちょっと、
1:20:43	説明をお願いしたいんですけども。
1:20:47	北陸電力石田です。
1:20:49	この 106 ページの方で、矢印落としていますけれども、
1:20:55	こちらにつきましては、
1:20:59	いわゆる傾斜変換点の部分ですね、D 湾層、
1:21:03	と、9 層、
1:21:06	の規定もちょっと若干ニシウチにますけれどもこの傾斜変換点部分を、今矢印量として、平面図上には赤丸で落としております。以上です。
1:21:20	海田です。わかりましたじゃき

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:25	105 ページで見えてるような変形構造と、
1:21:29	同等なものが、この 106 ページで、
1:21:33	同等というか同じ観点で見たおんなじポイントが、この 100、
1:21:38	6 ページのところの矢印に示してあるということで、
1:21:43	よろしいんですか。
1:21:46	栗城電力インダです。はい。その通りです。
1:21:50	はい海田です。わかりましたじゃアノそその辺もう少しこう、
1:21:54	わかりやすく書いアノそうであるということを書いていたきたいなと思います。というのは先ほど申し上げたように、105 ページも 106 ページも、
1:22:04	もう結構幅を持つてる。
1:22:06	ものなんで、
1:22:08	このピンポイントで書いても、それなりに
1:22:12	ずれがあるんじゃないかとも見えますので、こういった観点で見るとこなんですっていうポイントがわかるように書いておいていただきたいので、よろしくお願いします。
1:22:23	グループ電力一緒です。はい、承知しました。今ほどの、この
1:22:27	いわゆるナンバー
1:22:30	8 測線で見られた変形構造での連続性という観点で、実際どこを読んだかというところが、わかるところ。
1:22:39	がわかるような記載をしまして、実際にこの赤丸の位置のいわゆる根拠について、充実させたいと思います。以上です。
1:23:10	規制庁の海田です。
1:23:13	ちょっと飛ぶんですけど 350 ページですかね、KZ3 と 4 の評価結果って
1:23:23	確認をしたいたんですけれども、これ先ほど
1:23:28	いろいろ記載と未見直しがあつたという説明がありましたけれども、
1:23:33	ちょっとまずその事実関係としてですね
1:23:38	確認さしてください。
1:23:40	350 ページの図を見ると、Kz。
1:23:45	4 ではなくて 3 の方ですね。
1:23:48	3 の方の、断層のトレースが、
1:23:53	黄土色で書いてあつて、
1:23:55	それはどこかという、
1:23:58	3 本ぐらい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:00	紫色の背斜があるものの、
1:24:03	北側を変えて、北側とか北西側に線が引いてあります。
1:24:11	詳しいのがどこですっていうのが 357 ページ、2 回ですという説明なんです。
1:24:18	ですけども、
1:24:21	この 357 ページです。系Z3 っていう赤矢印が書いてある場所っていうのは、
1:24:28	先ほどのKZさんの地表トレースの位置、
1:24:33	このページで言うところの緑色の線のところだったと思うんですけど、
1:24:38	どうも見るとそこではなくて、
1:24:41	3 本ぐらい、催者が書いて背斜向斜かなが書いてあるところよりも、
1:24:48	南東側、南東側のところに、
1:24:53	探査記録上赤矢印が書いてあるんですけども、
1:24:57	これ平面と断面が合っていないっていうか
1:25:01	ようにも見えるんですが、そもそも地質の解釈から、
1:25:05	合っていないようにも見えるんですけども、これは
1:25:09	この辺ちょっと説明いただきたいんですが、
1:25:14	北陸電力 1 社です。
1:25:15	すいません 357 ページのこの赤三角で記載武市さん記述 4 につきましては、当社がこの地質調査所のアガワを解析、
1:25:26	して解釈した結果ここに対応する構造があるという意味で、記載をしております、すいません文献位置を落としたものではありません。
1:25:36	ちょっと紛らわしいのでこちらについては記載のやり方を修正させていただきたいと思います。以上です。
1:25:46	はい。規制庁の海田です。
1:25:50	350 ページの線、
1:25:53	木黄土色の線は文献の 1 とは重なってはいらぬと思うんですけど、
1:25:59	これも
1:26:00	北陸電力の解釈としてここだということで、地表トレースが示してあるのかなと思ったんですけど、これは違うんでしょうか。
1:26:11	北陸電力 1 社です。
1:26:13	こちらK13K-NET4 につきましては、文献調査の結果を重視しております、
1:26:20	当社の評価結果。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:23	の1よりも、この文科省は、この場合は文科省になりますけども、文科省が示した1の、
1:26:31	優先して、当社の評価、最終的な断層位置の評価としております。以上です。
1:26:43	規制庁の海田です。
1:26:48	文献を重視されてるところであったんですけどちょっとKZさんの地質後、構造的な特徴っていうのは、
1:26:58	北西傾斜で、逆断層で、
1:27:01	その北西側を持ち上げるような、
1:27:05	地質構造があるっていう。
1:27:08	ふうな
1:27:11	断層っていうことかと思ってたんですけども、
1:27:17	それは記録からはそうならないっていうこと、ちょっとその下、地質構造はこれ、どういうふうに、
1:27:25	解釈されてるのかを教えてくださいんですけども。
1:27:31	北陸電力石田です。
1:27:33	北西傾斜南東傾斜の計算の北西傾斜ケースでは南東傾斜と判断した根拠としましては、一つ今の357ページの方、
1:27:44	もう我々、その一部測線ですけども、解析しまして、エアガン、
1:27:50	統計セトさんの、
1:27:53	対応するような構造の位置には、北西上がりの構造が見えますし、K-NET4の方には南東上がりの構造が見えております。
1:28:03	また、この
1:28:05	評価我々、文献の評価をこちら重視しておりますけれども文献で言いますと355ページの方に、文科省が2015が示しております定例と3Kジェット4、
1:28:17	のモデル作成に用いたデータということで、
1:28:20	A2断面ですね、I3測線とI2測線が示されておまして、こちらでも同様に、K0と3につきましては、北西が上がっているような断面、
1:28:31	記録が、の掲載されておりましたし、建設業につきましても、南東が上がっているような反射記録が掲載されていると。
1:28:40	こういったことから、建設アンケート4は、
1:28:45	それぞれのケース3が北西傾斜計というのが南東傾斜というふうに判断しております。
1:28:50	以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:53	規制庁海田イセわかりましたアノ 355 ページで書いてあるような、
1:29:00	もう文献でも示してあると。
1:29:03	ということでそれと対応するところが 357 ページの、やっぱりこれを見ると、北西側を持ち上げるような構造だと。
1:29:14	ということで、そうであれば、何でここにトレイ制を引かないで、
1:29:22	後、10 キロぐらい離れた北側の方のところに、線を引いているかっていうところはちょっとこの説明からだけではよくわからないので、
1:29:32	文献を重視したっていう。
1:29:36	一言ではなくても、もう少し内容的なことを書いていただきたいんですけども、よろしいでしょうか。
1:29:44	はい。北陸電力の原です。こちらの文科省の金額 2000 といいますのは、津波波源をモデル化したさ、そのモデルの線を書いておりますので、
1:29:58	実際音波探査測線で確認できる断層の位置等は、若干ずれてる部分。
1:30:05	というのもあるかと思えます。
1:30:07	それを文献の方に立ち返ればそういった説明も書いてあると思えますので、
1:30:14	そういったことがわかるように、どういった意味でこの文献の
1:30:19	トレースが書かれているのか、そういったこともしっかり説明に加えて、当社としての地質構造の考え方もしっかり合わせて変えていきたいと思えます。
1:30:29	以上です。
1:30:31	規制庁海田ですわかりましたじゃちょっとその辺りの記載を、会追加していただいてわかりやすく、
1:30:39	していただきたいので、よろしくお願いします。
1:30:48	規制庁の宮脇です。ちょっと今の件で確認なんですけど、文科省の
1:30:54	このトレイ数の精度っていうのは、どれぐらいの精度があるんですかね
1:30:59	350 ページとかで見ると両両端に
1:31:04	マル、マルがある、丸が記してますけども、これについて何か、
1:31:09	緯度経度とかで示されてるようなものなんで、
1:31:15	北陸電力 1 社です。
1:31:16	文科省ほか 2015 につきましては、座標が明示されていまして、その座標と、断層長さ層厚等の情報を使って、この
1:31:28	当位置図、我々の位置図に落としています。以上です。
1:31:35	了解しました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:37	そういった
1:31:38	トレース、
1:31:40	遺さによるミスとかそういったものはない。
1:31:46	はい。北陸電力石田です。はい。それぞれの
1:31:52	ものについては、
1:31:54	そうですね少なくとも文科省につきましては表で示されておりますので、
1:31:57	それで落としています。一緒に産総研の図とかも落としていますけれども、これについては、塾を、
1:32:08	地形等で重ねて、音、落としているところはございます。以上です。
1:32:15	はい。
1:32:16	承知しました。
1:32:18	他に、
1:32:21	きちっとノダですけど、少し形式的なところで、
1:32:26	350 ページ、時計Zさんと経営ともしかしたら、ほかにも、
1:32:31	共通するかもしれないんで、2 点確認させてもらいたいのは、上の箱書きで、一つ目のところで、
1:32:40	いきなりその本仮称ほか 2015 って書いてあるんですけど、これは文献調査の結果ですよ。例えば、
1:32:49	その下二つ下三つ目の丸のところ初めてここ文献調査の結果国交省ほか 2014 って出てくるんですけど、この文科省他もおそらく 351 ページの整理でいうと、
1:33:00	文献調査結果なんで、ちょっとそこら辺の括りん調査、文献調査だったり地質調査やってる音波探査だったり、調査いろいろあると思うんですけど、その辺のくくりがちょっと、
1:33:10	うまく整理されてないかなと思うんですけど、インダさんこの点いかがですか。
1:33:27	僕エヌ・ピー・シーすいません。
1:33:30	3 マル目の記載と、
1:33:33	1 マル目の文科省ほか 2015 の記載の違い。
1:33:36	石坂すいませんもう一度お願いできますか。
1:33:40	規制庁野田ですけど、3 マル目のところは、始まりがも文献調査の結果、国交省ほか 2014 って書いてあるんですけど、一つ目の丸の文科省ほか 2014、15。
1:33:53	文献調査の結果ではないかと思うんですけど、
1:33:56	まずその点は違いますか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:58	合ってますか。
1:34:00	北陸電力 1 社です。
1:34:02	えっとですねこの、
1:34:03	掲示とサンケイ出て他の断層にもこういった記載あるんですけども、この
1:34:09	1 マル目の文科省か 2015 につきましては、この掲示と産経Z4 の名称の定義づけといたしますか、そういった意味で使っております、
1:34:20	文献調査の結果自体としましては 4 枚目文科省他の
1:34:25	文献調査の結果としては 4 マル目に整理しています。ただこの 1 マル目のこのモンマショウガン 2015 という書き方は確かにちょっと紛らわしいのでこの記載の仕方はちょっと、
1:34:35	見直させていただきたいと思います。以上です。
1:34:44	規制庁の野田ですけどイシダさんご説明ありがとうございました。
1:34:49	ごめんなさい、私は基本的にその基準が移動。
1:34:54	の高校生を頭にこう、
1:34:57	入れて、いろいろ御社の資料を見ているんですよ。そうすると、
1:35:04	多分今ので伝わったと思うんですけど、私なんかこれ別に、文科省ほか 2015、まあまあアノて定義づけ断層の定義されてるっていうのはわかるんですけど、別に文献調査結果じゃないかなと思ってますし、
1:35:18	351 ページも、今ここ、評価結果ってあるんですけど、全部、文科省他も、岡村 2007 も国交省も文献調査結果になってるんで、
1:35:29	どういう調査結果ですかって言われたら、文献調査結果じゃないかなと思ったんで、すいませんちょっと確認させてもらったんで、はい。
1:35:38	ちょっと整理が、再生が必要じゃないかなというのが 1 点と、
1:35:43	あと、下の箱書き、黄色い箱書きのところの、ロジックなんですけど、
1:35:51	これは御社としてはKZ34、傾斜方向逆でも、
1:36:00	両方連動させるって、
1:36:03	しているんいる結論としてはしてるんですけど、
1:36:07	こういう書き方をしちゃったときに、連動を否定する時ってどうすんのかなっていうのが、私は気になっていて、それはなぜかという、
1:36:17	今これ、御社としては、連動が低いです。
1:36:21	ただ、文献で言われていて、重要な知見なんで、
1:36:25	評価に反映させますって言っちゃってるんですよ。
1:36:30	こういう書き方おっしゃったときに、
1:36:32	連動を否定する場合はどういうロジックを組むのかな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:36:37	ということが気になっ
1:36:38	たんで、一応お伝えしときます。
1:36:42	いえ。
1:36:43	ちょっと連動して、
1:36:45	してるやつと対比し、比較しながら見る方がいいかなと思うんで。はい。ちょっと気づいて
1:36:52	気になったんで、お伝えだけしておきます。以上です。
1:36:58	はい。北陸電力の野原です。
1:37:01	今ほどのご指摘の点、1点目の文献調査の再整理、これにつきまして了解しましたので、
1:37:07	す、改めて再整理したいと思います。
1:37:12	そして黄色の枠の中の書き方ですが、
1:37:16	これも我々としましては、やはり文献9番、国の
1:37:22	国によって行われた重要な文献というのは、一番重要視しております。
1:37:29	ですので例えば連動否定する時、
1:37:31	こういった時には文献にそういった連動を規定している文献はないといったものを、記載、
1:37:40	していくことになるかと思えます。
1:37:42	今回のケースにつきましては、
1:37:44	我々の地質データですとか、我々としては、文献調査、そういった結果からは、断層面が、
1:37:52	地下深部で離れていくので、周りとしては、連動の可能性は低いと思ってるんですが、文献がそう言っている上、文献の評価を踏襲すると。
1:38:04	ということでこういった書き方を現状させていただいております。
1:38:10	はい。以上です。
1:38:12	規制庁野田ですけど、小原さんご説明ありがとうございましたはい。このケースはそういった書き方で、整理するのかなと、汗しなくはないかなと思うんですけど。
1:38:23	逆に否定するときに、どの、
1:38:25	対比で、この
1:38:27	こっちは大丈夫かなと思ったね。ちょっと
1:38:31	否定する、連動を否定するケースか、文献で連動してるものを御社が、音波探査記録で否定するケースともちょっと合わせて、下見て確認しておきたいと思えます。ありがとうございます。
1:38:51	規制庁の海田です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:54	引き続きまして今の話ともちょっと関連するんですけども、
1:39:00	Kz3、4 はここ、350 ページの図だけ見ると、わかんないんですけど、
1:39:08	何ページです 399 ページですか。
1:39:13	小断層群っていうのを今回、これも前回のコメント回答ということで、その説明を加えていただいたと。
1:39:23	ということで、
1:39:25	計ずっと三、四、
1:39:27	ちょうど同じ
1:39:31	と、あとは区結城西のを囲む範囲のようなところに、
1:39:36	小断層群というのがあってこれは基盤城前。
1:39:40	基盤上部の、
1:39:42	印上力が生じて形成された。
1:39:45	ものである。
1:39:47	だろうと、それで地下に新アノ続かないと。
1:39:51	ということでそういったことが説明されています。
1:39:55	399 ページの図を見ると、
1:39:59	確かにその羽咋沖と、
1:40:02	この形Z4 を、
1:40:05	間の部分ですねここに密集してますと。
1:40:09	その位置関係についてはわかりましたし、
1:40:14	この形Z4 っていうのはさっきの議論でいうと、
1:40:18	これは東傾斜か
1:40:21	東傾斜で今、ここに撓曲変形の 2 項、
1:40:25	持ち上がってる、そこに院長力が働きましたっていうそういうことを説明されたいのかなと思うんですけども。
1:40:33	片やKZさんっていうと、
1:40:37	さっきの説明だと、
1:40:40	反対の傾斜になってて、
1:40:43	等、
1:40:45	ページで言うところか、412 ページですか。
1:40:52	さんと、計Z4 と違って、KZさんの方は、
1:41:01	断層の下盤側、小断層分布域っていうのをした坂断層の下盤側にあって宗院長。
1:41:09	が働いたっていう説明がちょっとこうじっくりと、すぐにはわからないんですけど、この辺は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:17	こうだっというのは、多分なかなか難しいかもしれないですけど何かこの3と4の違いに何かお考え等はあるんでしょうか。
1:41:28	北陸電力一緒です。
1:41:30	ちょっと、当社の解釈としましては、
1:41:33	時計ジェットさん。
1:41:35	の影響でできたという、警察34というふうに今書いていますけれども正確には系ジェット4と泊与儀西撓曲。
1:41:43	の影響で上がっていると、いうふうに考えています。実際、パクリ西撓曲とケース3の間の、この小断層群のみ周期の
1:41:54	2点鎖線。
1:41:56	の、
1:41:56	範囲を見ますと、Kレットさんの直下の方には、そういう未集金見られませんで、薄予備西撓曲の方にちょっと寄ったような形状を示しておりますで、
1:42:07	経営と4が分布するところに行きますと、KZ4の方に、
1:42:13	西側の方にちょっと広がった形成形状を示している。
1:42:18	逆に悪用キニシ当局よりも南の方に行くと、泊行き西撓曲の下の方には、そういう未集金広がっておりませんで系Z4の方に寄った形で、未収金が分布していると、いうふうなことを考えますと、
1:42:31	やはり2、2市当局と系統の影響で、院長力が発生してできたというふうに考えております。
1:42:39	今ちょっと連動評価をした。
1:42:42	ためにこのK34という名称。
1:42:46	として整理していたのでちょっとこちら形Z4の方がおそらく説明としては、
1:42:52	正しいんで、こちら経営と呼んで直していきたいと思えます。はい。以上です。
1:42:59	はい。規制庁の甲斐です。ここに書いてあるのは、アノ系ずっと4度泊行きの、
1:43:07	ニシノ影響で今院長力の可能性があると。
1:43:11	そういうことです。この412ページ、
1:43:17	これはちょっと、3参考ぐらいになるのか。
1:43:21	このちょっと赤矢印の1も先ほどの議論となったところ、
1:43:26	いので、見直されるということで、
1:43:30	わかりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:34	とは言いながらですねこの資料を見た時に、KZ3 と 4 というのは傾斜方向が逆で、本来なら連動しないはずなんだけれども、
1:43:45	何か連動してるっていうのは、こういった
1:43:50	すぐ、
1:43:51	東側に、
1:43:52	小断層群みたいなものが、同じような地質構造のものが、ここ、
1:44:01	3 と 4 通じて、それなりに分布してるからこういったことも、
1:44:06	何か、
1:44:07	多少は考慮が入ってるのかなというふうに、
1:44:10	とも思ったん。
1:44:11	ちょっと見てて思ったんですけど、そうではなくて、
1:44:15	これは 4、4 だという、いうこと。
1:44:20	ということで今説明があったので、
1:44:23	わかりましたじゃ
1:44:27	ちょっと記載の方はまた適正化の方、
1:44:31	よろしくお願いします。
1:44:36	やっぱり電力社員。はい。先ほど、
1:44:39	記載の見直しはさせていただきました。ちなみにですねこの 402 ページの方を見ていただきますと、
1:44:46	実際岡村 2007Aに示します地質図と、こういった小断層群ですとか迫力西井計算系と 4 の対応というようなところ、
1:44:57	が問われてますけれども、実際系列さんの方を見ますと、
1:45:01	KZさんの西側には高浜桐生北井が分布しておりまして実際、ケース 3 に、
1:45:08	の影響で上がっていると考えるのはやはりこちら側というふうに考えられますので、実際K-NET4 の影響の方ですと迫撃西撓曲の影響の大きいのかなというふうに考えております。以上です。
1:45:23	はい。規制庁の甲斐です。わかりました。
1:45:27	記載と、よろしくお願いします。
1:45:38	規制庁野田ですけど、
1:45:40	この小断層を手短に 2 点、1 点目は、399 ページの評価結果のところ、黄色い箱書きが、記載がですね、最後震源として考慮する活断層に該当しないと評価したっていうところの理由が、
1:45:55	形成要因になっていて、それも一つあるのかなと思うんですけど、私なんか

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:01	基準ガイドとの関係でいうと、これ三つ目の丸のところ、これがいいかどうかは、また確認しようと思うんですけど、
1:46:12	深部の記録、地下深部の記録からは、
1:46:16	Cだし、新第3系中新統に対比される、深部に要するに断層は認められないって言うてるんでしょう。
1:46:24	だからそれも別に、震源として考慮する活断層に該当しない。
1:46:31	何だろう、根拠の一つじゃないかなとか思ってるんですその辺は御社はどのようにお考えかというのが1点と、あと2点目はこれ、398ページで、参考ってなってるんですけど、
1:46:43	別に参考じゃなくて、
1:46:47	他の短日断層と同じ位置付けでいいんじゃないかなと思うんですが、ここを参考にした理由を確認させてもらっていいです。
1:46:56	北陸電力1社です。
1:46:58	まず1点目の、地下深部。
1:47:02	に断層がないという根拠、音が根拠の一つという指定なんですけれども、
1:47:08	一応黄色の箱書きの2行目に、とかね地下深部で連続するもので判断できることから記載はしているんですけども、もうちょっと、いわゆる3マル目の、
1:47:18	エアガン、いわゆる深部の記録にないというようなことですかそういうことも踏まえた上での、強い根拠の一つというような、
1:47:28	主張にちょっと記載の見直しを、
1:47:32	したいと思います。
1:47:34	また、参考扱いにしたのはですね、2点目の参考扱いにしたのは、実際他の断層、断層がないことを否定したものも含めまして、いわゆる文献調査で断層として示されているものっていう意味で、
1:47:49	示されてるものについてはいわゆるナンバリングして、
1:47:55	活動性評価等を行っているんですけども、こちらの小断層群につきましては、いわゆる、
1:48:00	いわゆる活断層、いわゆる断層として、示されているものではないということでもっと参考扱いにさせていただいたんですけども。おっしゃられることも、
1:48:11	重々理解できますので、こちらについてもナンバリングしまして、他の断層と同様な整理の仕方をしたいと思います。以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:21	規制庁ノダですけど、インダさん 2 点ご説明ありがとうございました。1 点目は、すいません。そうですね。確かに地下深部まで連続するものではないって書いてあるんですが、この理由は、
1:48:31	どっちかって形成要因の方に寄ってたんで、音波探査記録も、エビデンスの一つにはなると。
1:48:39	思っているんで、そこら辺、その辺りを、
1:48:42	記載充実してもらおうのと、あと、そうですね、2 点目の方は、例えば断層も別に文献では見つかってなくても、一応、示されていないと、我々近傍では議論していたんで、
1:48:55	そこは文献にあるかないかではなくて、普通にナンバリングしてもらえればと思います。以上です。
1:49:11	今の、
1:49:12	もう一つ確認させていただきたいんですけど、
1:49:15	規制庁の宮脇です。400 ページと 401 ページに、測線上に小断層群の確認した。
1:49:24	位置が書かれてるんですけども、
1:49:27	これは全くその断層トレース
1:49:30	分布としては、
1:49:32	断層のトレースは、
1:49:35	やらなかったですかね。
1:49:37	全部はちょっと難しいかなと思うんですけども。
1:49:45	北陸電力石井です。すいませんもう一度お願いできますでしょうか。
1:49:49	400 ページと 401 ページに、
1:49:53	測線上で小断層を確認した位置を示しているかと思うんですけども、
1:50:00	これの断層トレースっていうのは、
1:50:04	トレース図っていうのは作ってないんですか。
1:50:12	北陸電力石田です。
1:50:14	えーとですねこちらの断層、いわゆる平面的な断層トレースにつきについては、
1:50:20	いわゆる隣接する測線で似たような性状ですとか、
1:50:27	書いてありますけども正常、いわゆる落差とか落ち方向ですとか、営業の認める範囲っていうものを、
1:50:33	参考にしてつなげようと考えた場合に、いわゆるどれとどれを
1:50:39	繋がるのかっていうのは、判断できないと、実際、
1:50:42	数が多すぎるということと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:44	かといって隣接するところにいたような正常なものが必ず来るかということ そういうことでもないということもありまして、実際、断層トレースを書く ことは、
1:50:54	難しいというのが実際のところ、
1:50:56	実際、今、我々、成因としては院長力で、
1:51:01	いわゆるパキッ問われたというような、でき方を考えている中では、そう いった断層トレースが書けるようなものではなくてどちらかという、
1:51:13	部分的に少しずつ割れているというような、
1:51:18	生き方といたしますか、そういう成因を考えています。はい。以上です。
1:51:23	はい、承知しました。
1:51:26	他に個別の断層で、何か規制庁の方からコメントありますか。
1:51:33	ないようですのでじゃ、
1:51:36	追加の連動評価の方に入りたいと思います。
1:51:43	448 ページ。
1:51:47	2、
1:51:50	この断層傾斜方向が異なる断層が連動した過去の事例に、
1:51:56	関する検討は示されていますけども、これについてちょっと確認させて いただきたいんですけども。
1:52:02	まず(1)の同傾斜の断層の有無の検討というところで、
1:52:08	これ 1983 年北海道南清沖地震、
1:52:12	これ、
1:52:14	パツてきて
1:52:16	検討しているようですけども、小令和、
1:52:20	要するに、当初、
1:52:22	逆傾斜してる。
1:52:24	としてた。
1:52:26	さらに、
1:52:29	会議に同傾斜のものが連続していたということを、
1:52:35	確認すると、深い深部にその潜在してるような断層があるかどうかって いうのを確認するという、
1:52:43	ということなんです
1:52:48	北陸電力の喜田です。449 ページの、1993 年北海道南西沖地震につき ましては、1 件、断層の傾斜方向が異なる話の形態。
1:53:02	る断層。
1:53:03	だったんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:06	その黄色、
1:53:08	データを見ると、
1:53:10	新聞に、
1:53:12	西傾斜の、同一の傾斜となるような断層は、
1:53:17	隠れていたということで、同傾斜となるような断層が存在していて、同傾斜の断層同士が連動したという事例ということがわかっております。
1:53:29	そういったことから、
1:53:32	同傾斜の断層は 1 件、話の形態にそうでも、どう計算。
1:53:40	断層、隠れているということがないかということ、
1:53:44	確認する。
1:53:45	という、必要があるかという。
1:53:48	ことで、448 ページの方に、そのような検討を行うということを記載しております。以上です。
1:53:57	はい。
1:53:58	この 449 ページに、震源の余震分布が示されてますけども、これ見ると、
1:54:06	地震、
1:54:08	長谷層、
1:54:10	以下以深の分布になって、
1:54:13	3 キロ、3 キロよりも深いところのポンプですよ。
1:54:17	ええ。
1:54:18	それでもって
1:54:21	西傾斜の断層が初めて確認されたということなんですけども、
1:54:26	これと同等。
1:54:27	の例えば 10 キロぐらいの反射法地震探査。
1:54:32	アノ断面とかを使わないとこういうことって確認できないと思うんですけども、
1:54:38	それは大丈夫なんですか。
1:54:40	これとどう
1:54:43	どう、同じような形の断層において、深井探査記録でもってきて、
1:54:50	できる或いは数、それ以外の方法で否定できるような材料っていうのはあるんですかね。
1:54:58	北陸電力 1 社です。
1:55:00	449 ページの右の図の方なんですけれども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:06	ちょっと小さく書いてるんですけども、こちら西傾斜の震源断層確かに おっしゃるように震源分布を用いて想定されているんですけども、そ の想定、
1:55:15	現状 1、ピンク線で、左の平面図等には書いていますけれども、
1:55:20	この位置の音波探査記録を見ますと、地形の傾斜変換ですとかそうい ったものが推定されております。実際それがこの西傾斜の
1:55:31	隠れていた震源断層によって生じたものであるという推定がされてお ります。従いまして、こういった震源断層が隠れている場合は、浅部
1:55:42	に関しても、何かしらの変状が出ていると、いうふうに考えられます。し たがいまして、我々、
1:55:50	断層周辺のスパーカーやエアガン等で、
1:55:55	そういった変状もないということを確認している、確認するような検討を しようというふうに考えております。以上です。
1:56:06	このミナミ蘇武銀次地震のところの左の断層トレースが、
1:56:14	示されてますけども、当初はこの
1:56:21	黄色のトレースっていうのは、活断層として、
1:56:24	認識されてたわけですよ。一方でこのピンクの
1:56:29	箇所っていうのは、
1:56:31	この地域でも音波探査とかいろんな種類の、
1:56:34	エアガンとかスパーカーとかいろいろ深い探査やってたと思うんです。 やってると思うんですけどもそれでも、その活断層として認定認識できる ようなものは、
1:56:44	なかったということですよこの辺りでは、
1:57:19	北陸電力の野原です。
1:57:22	Tアノ確かにおっしゃる通りもともとは、449 ページの黄色で示す、断層、
1:57:29	が音波探査記録、音波探査で確認されていたもので、ピンクのものは、 なかなか確認されなかったということなんですが、
1:57:38	江藤間は、我々の今、対象としている海域につきましては当社データ、
1:57:44	スパーカー分はエアガンたくさん充実しておりますし、
1:57:48	ベースが隆起しているところにつきましても、
1:57:53	衛藤、もしこういったバックスラストのものがあれば、
1:57:57	それと隆起対応、ある程度深部まではしっかり見えておりますので、
1:58:02	何かこういうものがあれば、線分何らかの断層形状というものがあらわ れるものと考えております。
1:58:09	そういった観点から、深いところだけでは、深いところ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:13	のデータがなくても、浅いところのデータをしっかり見れば、バックスラスト。
1:58:22	ぬ可能性のある断層というものが確認できるのではないかと。そういった観点で我々この資料の方、作成しております。
1:58:30	以上です。考え方は割わかりましたんでちょっと個別の断層のところで確認させていただきたいと思います。
1:58:39	それから(2)番の協約で関係の有無の検討というところで、
1:58:46	これ、2007年の
1:58:48	中越沖断層のケースを持ち出してきているようですけども、
1:58:53	これについては
1:58:55	圧縮軸Σ湾に対して
1:58:59	断層、各断層がどれぐらい傾斜しているのかということで検討されているようですけども、
1:59:05	そうすると傾斜角とか、傾斜方向っていうのが、事情に合ってくるかと思えますけどもこの考え方でいくと、
1:59:14	それぞれの
1:59:17	断層において、すべて
1:59:20	傾斜角とか傾斜方向っていうのは、
1:59:22	わかっ。
1:59:23	出るということよろしいんでしょうか。
1:59:30	北陸電力1社です。
1:59:32	はい。こちらのVOG
1:59:34	いわゆる教育関係にあるかどうかという検討を行うにあたっては、おっしゃられるように運動方向ですとか、傾斜角度、
1:59:42	傾斜方向が重要になってきます。
1:59:44	基本的に、
1:59:47	経営者、
1:59:48	方向ですが傾斜角度、逆断層がどうかっていうところにつきましては、現在の応力場ですとか、実際に音波探査を見たときに、何日まで変位しているかというところを考えますと基本的には逆断層で活動しているというふうに考えております。
2:00:05	で、傾斜方向につきましても逆断層と考えた場合にどちらが上がっているかどちらが下がっているかという判断できますし、傾斜角度につきましては、こちら、日本海プロジェクトは国交省との文献調査も充実しておりますので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:19	傾斜角度に関する情報も基本的にはあるということで、そちらのデータを使って検討を行っております。以上です。
2:00:28	はい。もう考え方はわかりましたんでこれも個別の断層のところできっと確認させていただきます。
2:00:37	この概要のところでは他に何か規制庁の方から、
2:00:41	コメントあります。
2:00:45	規制庁の海田イセ 446 ページ、これは説明としては前は傾斜方向が、
2:00:52	必須っていう話だったのがちょっとそこの考え方が変更されたっていうところは確認できたんですが、
2:01:02	こう見てるところ、
2:01:05	これ紙資料の
2:01:08	書きぶりの話かと思うんですけど、
2:01:11	ずっと上から見ていくとずれの向きと傾斜方向っていうのが出てきて、
2:01:18	最後の最後んなってそれは両方同じなんですみたいなのが注釈に書いてあって、
2:01:26	結局ずれの向きっていうのは、傾斜方向と同じような項目なんですっていうの。
2:01:32	が、
2:01:33	書いてます。
2:01:36	ここの間に来るまでに、
2:01:38	何かこう、傾斜方向とずれの向きっていうのが、
2:01:45	同等なもんっていうか、結局同じもんですよっていうのが、
2:01:51	何か書いてないところ、ここまで来て再本当最後の最後に医師一緒ですっていうふうな感じに見えちゃうんで、
2:02:01	ちょっと見てて、
2:02:03	ずっとわかってわからなかったところもあったんですけど、ちょっとこれ、私の見方が悪いのかどっか最初の方に断り書きか何かあったのか。
2:02:13	とか後もしないんだったら、もうちょっと前段のところの説明があると、資料として読みやすいんですけど。
2:02:21	この点いかがですか。
2:02:25	北陸電力の機能です。
2:02:27	今ほど海田さんおっしゃった通り、0 向きと断層面の傾斜方向は、同じ意味ですということ、446 ページの米印の注釈に記載している。
2:02:40	だけでございまして、この
2:02:42	これについてはもっと前段のところでもわかるように、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:47	した方が良いというコメントの趣旨かと思しますので、そのように修正させていただきます。
2:02:56	以上です。
2:02:58	規制庁甲斐です。ではよろしくお願いします。
2:03:05	規制庁原田です。406、46 ペイジーにあるのでちょっとついでに確認したいんですけど。
2:03:14	onシャーは連動の評価で地震活動を使用されていると。
2:03:21	ということですが、確認したいのは、onシャーのは、この地震活動っていうものを、御社の言う地震活動っていうのはどういうことを指すのか。
2:03:33	っていうか、どういうことを考えられてるのかっていうのをちょっと確認したい。
2:03:38	です。なぜなら、445 ページ。
2:03:43	の、
2:03:47	地震調査委員会とか国交省ほか 2014 の地震活動っていうのは、この連動を考慮したケースとかで、①は、過去の
2:03:57	地震で同時に活動したとか、断層田んぼを過去の地震の震源域の境界まで延ばしたとかあって、
2:04:04	こういうふうに、過去に例えばトレンチ調査をして、違う、隣り合った断層のところで、同じ時期に変位が認められるとか、例えば、
2:04:16	②のところかというと、南海トラフでいうと、ショーワとショーワの藤南海と南海が、震源域が二つあってそれが宝永地震、
2:04:26	とか過去に連動するとか、そういうふうなイメージを、の地震活動なんです、御社の
2:04:34	やられている地震活動例えば 512 ページ、
2:04:40	見ていただくと、
2:04:44	ここに連動の検討。
2:04:46	地震活動ってありまして、余震が、
2:04:50	2007 年能登半島沖地震の余震活動が拡大したから、
2:04:55	その拡大したところは連動するっていうふうに、
2:05:00	評価されてます。
2:05:02	これは国交省のとか、地震調査委員会がやられている地震活動とは、違う地震で同じ地震活動という言葉を使って、
2:05:13	ますけど、別のことをやられるっていると思うんですが、
2:05:18	御社が、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:20	考えている地震活動というのはこちらであって、この国交省がやられている 445 ページのような地震活動ではないということによろしいでしょうか。
2:05:34	はい。北陸電力の喜納です。
2:05:36	今ほど、540 ページ、
2:05:41	ご覧いただきまして、
2:05:45	540 ページの一覧表のところに、2007 年の担当地震の余震活動。
2:05:54	それは大きいセグメントには拡大していないと、というようなことを記載しております。
2:06:01	で、
2:06:03	国による連動の評価におきましては、445 ページにちょっとまとめておりますけども、
2:06:10	445 ページの、
2:06:12	①で、過去の地震で同時に活動したものは、連動を考慮していると。
2:06:19	いうものはございますけども、過去の地震で同時に活動しなかったものは、
2:06:25	年度を考慮しないというような事例は確かにおっしゃる通り、ございません。
2:06:30	なので我々の評価としては、この連動を考慮したケースをする、この①の過去の地震で同時に活動した。
2:06:39	というものに該当するものについては、我々は連動を
2:06:44	考慮しますし、過去の地震で同時に活動していないものについては、その裏側ん裏返しといいますか、そういった解釈で、連動、
2:06:56	しないと。
2:06:58	いうことを示唆するデータとして、
2:07:01	我々として
2:07:03	解釈、
2:07:04	を記載しております。
2:07:06	それから、
2:07:08	笹波沖断層体につきましては、この 2007 年能登半島地震で、
2:07:13	発生しております、
2:07:15	その 2007 年の担当地震の、地震の発生間隔についても、知見がございまして、発生間隔は、1000 から 2000 年程度であると。
2:07:25	いうふうにされておりますので、2007 年で地震が起きて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:30	それから、発生最大間隔は、1000 から 2000 年ということを考えますと、
2:07:35	今後の原子力発電所の供用期間中に、
2:07:40	再び発生するという事は少し考えがたいのかなということで、これも
2:07:46	連動を否定する、
2:07:47	根拠の一つとして、
2:07:50	用いております。
2:07:52	はい。以上です。ご説明ありがとうございます。
2:07:57	もう一つ確認したいんですけど、御社が連動のために、評価に使用されているこの余震の拡大とか、
2:08:07	例えば、この再来間隔がっていうのは、
2:08:11	頭が長いからっていうのは、国の機関、ここ、地震調査委員会とか国交省ではやられてるんでしょうか。
2:08:28	はい。北陸電力の野原です。
2:08:32	今のような事例っていうのは、国の方でやられているわけではございませんが、今度は我々、自分たちが有しているデータを総合的に解釈しまして、
2:08:44	評価に用いているというそういった位置付け。
2:08:48	を考えております。
2:08:50	以上です。
2:08:52	説明ありがとうございます。
2:08:55	でも、我々がやっぱりこの規制庁として、を受け入れるには、
2:09:04	それを他の人に説明しないと駄目なんですけど、例えば余震が広がるから、
2:09:11	そこは次連動するっていうことを、の根拠っていうのを示していただかないと、なかなか我々は、これを受け入れて、
2:09:23	他に説明するっていうことはできないんですが、よろしいでしょうか。その点はどうでしょうか。
2:09:48	北陸電力の野原です。
2:09:51	国の機関として書かれたものはございませんが例えば他サイトの審査資料等をちょっと参考にしまして、今のこの供用期間っていう評価は
2:10:02	記載させていただきました。
2:10:04	またその余震分布につきましては確かに裏返しという解釈になるので、直接的なものは書かれておりませんが、
2:10:12	地震が起こったことに伴う供用期間内に、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:16	その断層をベースにした地震を超えないというのは他サイトの
2:10:20	審査資料を参考にさせていただきました。
2:10:23	以上です。
2:10:26	説明ありがとうございます。
2:10:28	供用期間に関しても、
2:10:33	例えば、
2:10:38	そこは、
2:10:52	ございますがちょっと供用期間に関してはまた後でちょっと後程議論します。ありがとうございました。
2:11:03	規制庁の海田です。
2:11:05	供用期間のお話は、
2:11:08	他サイトの
2:11:10	参考についてということでした、
2:11:15	こういう話があったんだけど、
2:11:20	結局そうそれは後期更新世以降に活動があるっていう、
2:11:25	ところで基準上はす。
2:11:30	それで切れるんじゃない。切るのはどうかっていう議論も
2:11:35	ほぼ、片やそういう議論もあったサイトもありますので、
2:11:41	ちょっと負け結果そこは連動するっていうことにしたんですけど、
2:11:45	ちょっとこちらの方でもまたその辺は確認してみたいと思います。
2:11:52	以上です。
2:12:03	岡井です。
2:12:13	規制庁の野田ですけど、すみません。江藤。
2:12:17	事実確認じゃなくて、ヒアリング始まってからちょっと2時間、もう経過して、4時半を過ぎてしまっていて、今後のちょっと、ヒアリングの進め方なんですけど、
2:12:30	このまま、我々としてはこのまま少し続けてもいいですし、あとは、また別途、日を改めてということでも大丈夫なんですか。
2:12:40	ちょっとお医者の方のご予定とかもあるかと思うんで、
2:12:43	すみませんちょっとここで一応、念のため確認させてもらえればと思いますけど、藤田さんいかがでしょう。
2:12:50	北陸電力藤田です。弊社の方は、このまま継続していただいた方が、
2:12:56	助かるんですけども、
2:12:57	規制庁さんのお時間、許されるのであれば、
2:13:00	そのようにお願いしたいと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:13:17	規制庁野田ですけど、藤田さんありがとうございます今ちょっと中でも話をしたんですけど、我々もできれば、今日やれるところまでと思っ ていて、5時過ぎぐらいまでお時間いただくことが可能であれば、
2:13:30	そこを5時過ぎをめぐりまで続けさせていただければと思いますけどい かがでしょうか。
2:13:37	藤田ですよろしくお願ひします。こちらの説明も冗長的にならないように、 簡潔にできるように、極力したいと思ひますよろしくお願ひします。
2:13:46	はい。ありがとうございます。じゃあ、引き続き、事実確認の方を続けさ せていただければと思ひます。ありがとうございます。
2:14:09	規制庁海田ですちょっとまたその4連動のこの検討項目っていうところ で確認、1点確認です。
2:14:18	445とか6辺りで、こういった項目が整理されますということでした。
2:14:28	たださっきの絵の今後、後で話があると思うんですけど、
2:14:33	笹波沖全長断層泰然町と、能登半島北部沿岸域で、
2:14:40	比抵抗っていうのが一つ項目が出てきてます。
2:14:45	これは
2:14:48	445とか6で、
2:14:51	比抵抗っていうのが1項一つ項目立てされてない時ですし、
2:14:56	何かそれをもって連動を評価したっていうのが、この逸見見る限りない んですけれども、
2:15:03	あるのであれば、変えて、
2:15:07	いただきたいですし、
2:15:08	ないのであれば
2:15:12	何でかっていうところは個別の断層評価のところ、なぜそれで判断で きるのかっていうところをちょっと詳しく書いていただきたいんですけど、 それ、今、まずあるのか。
2:15:23	どうかっていうのをちょっと確認したかったんですが。
2:15:28	北陸電力1社です。
2:15:29	まず、指定校構造をもとに国の評価事例とかで等で連動を評価した事 例というものは、
2:15:38	認められません。
2:15:40	ただ我々、この笹波沖断層体については、やはり能登半島地震が発生 したということもありまして、かなりいろんなデータが充実しております。
2:15:49	その中で比抵抗構造っていう、いわゆる、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:53	深部の構造が確認できるような、物理探査データに関しましてはいわゆる国の評価事例で言いますと、重力異常分布といったような、いわゆる物産データに該当する。
2:16:07	相当するものであろうというふうに考えておりますので、重力異常分布と同様に、この比抵抗構造についても、連動を、
2:16:17	強化するデータの根拠として用いることができるのではないかとということでこちらのデータを使わせていただいています。以上です。
2:16:26	海田です。わかりましたそういったことも、甲斐甲斐、実際の検討の方で書いた上で
2:16:34	背景を説明した上で説明の方に入っていただければと思います。これはわかりましたんで引き続き別の
2:16:43	質問に行きたいと思います。
2:16:49	はい。規制庁の宮脇です。
2:16:51	それでは個別の連動評価結果に入りたいと思います
2:16:57	最初に
2:17:00	452 ページの福浦断層と、
2:17:03	兜岩沖断層の連動の検討結果についてですけども、
2:17:07	453 ページの検討結果の一覧を見ると、
2:17:15	まず海上音波探査で
2:17:19	兜岩断層、
2:17:21	B案、
2:17:22	層以上に西沖地の変位変形が認められ、
2:17:25	逆断層として仮定した場合というふうにし
2:17:28	あるんですけども、
2:17:30	この仮定した場合っていうのはこれどういうことなんですかね。つまり
2:17:35	変位の方向とかですね、変位
2:17:39	傾斜角度っていうのがよくわかってないということなんでしょうか。
2:17:44	はい。奥陸。
2:17:48	北陸電力一緒です。
2:17:50	この逆断層と仮定した場合と書いた理由といたしましては、いわゆる福浦断層のように直接、
2:17:57	薄片等をとって、薄片等で運動方向が確認できているとか、そういったことではないということと、例えば笹波沖断層体のように実際に地震が発生して、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:18:08	発生メカニズムが解明されているというわけではないというところがありまして、一つ、
2:18:14	直接的なデータではないというのが一つ。
2:18:17	査定した場合と書いた理由になります。
2:18:19	ただですね、
2:18:21	先ほど長井からご説明させていただいてますけれども、今の応力場ですとか、実際に
2:18:28	どこまで何層まで変位変形はおよんでいるかということを考えますと、兜岩沖断層というのは逆断層で、活動した可能性高いというふうに考えておりますし、
2:18:38	実際、音波探査記録の上盤側の形状を見ましても、逆断層で、できるよう、
2:18:45	ような形状を示しているということも、
2:18:48	踏まえまして我々この兜岩沖断層に関しては逆断層というふうに判断しております。
2:18:53	そういったことも踏まえますと傾斜方向等もわかってくるという、
2:18:58	解釈ロジックを立てております。ただ、今、この逆断層と仮定した場合という一言で終わってしまっているのです、そういったところをもうちょっと詳しく書きまして、
2:19:09	こういう訳だ。実際、このフクダ断層と兜岩沖断層に関しましては通訳断層の検討を行っているのです、こういった情報が重要になってくるかと思えますので、こういったところの記載を充実したいというふうに思います。以上です。
2:19:23	はい。ちょっと重要なところですので、その点をお願いしますんで。
2:19:30	例えば、458 ページに、兜岩沖断層の傾斜角度がある 60 度であるということ、
2:19:38	を示しているんですけども、この 60° っていう等、どっから出てきたんですかね。
2:19:45	クリック電力イシダです。こちらにつきましても、兜岩沖断層の傾斜角度自体は、456 ページの音波探査記録にありますように、工学、
2:19:57	であろうというところまでがわかっています。こちらのカドイ断層については他の文献等でも示されているような文献はないので、そういった文献調査からも傾斜がクドウわからないんですけども、
2:20:12	こちら福浦檀近傍のフクダ断層の方でもご説明させていただきましたけれども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:16	36 ページの方ですね。
2:20:20	いわゆる能登半島周辺に分布する活断層の傾斜角、
2:20:24	いわゆる、
2:20:28	形成的なことを考えますと、佐貫断層台東部が 60° で傾斜しているで すとか、
2:20:34	兜岩沖断層と同走向の羽咋沖東撓曲が、深部データから、
2:20:40	60 度ぐらいの見かけの傾斜ができていますと、見かけの傾斜の 60 度出 てきていると。
2:20:47	いうところも踏まえますと、兜岩沖断層も同様な深部については同様に 60° 程度の傾斜角であろうということが推定されて、推定できますの で、
2:20:57	今回のこの福浦断層と兜岩沖断層の連動の検討にあたっても、同様に 60° を仮定しまして、この地下深部形状の経営等を行っております。以 上です。
2:21:11	そのその辺りのことは書いてるんですかね詳細なこと。
2:21:19	もし書いてなければちょっと、
2:21:21	記載をちょっと変えといてもらいたいんですけども。
2:21:25	はい。北陸電力石田です。はいおっしゃられる通り今ほどの、もう、
2:21:30	説明につきましては 460、この検討のところには記載されていませ んで、どういった考えでこの傾斜角を設定したかというところがわかるよ うな、記載を追加したいと思います以上です。
2:21:44	はい。よろしくお願いします。
2:21:46	それから次、
2:21:54	この断層の、
2:21:58	455 ページですね。
2:22:01	これ、
2:22:03	455、
2:22:06	これは、説明によると、
2:22:11	規律分布が、福浦断層、
2:22:14	と、それから、
2:22:15	兜岩断層。
2:22:18	沖では違うという話なんですけども、
2:22:20	これ確かにその兜岩放棄断層の大町アノ浅井部分では、その第 4 紀層 と、
2:22:28	それから D、D 湾層は接してますけども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:22:32	深いところではこれはアノDOneソウノナカ。
2:22:36	太田断層が通ってい
2:22:38	て、
2:22:39	じゃないでしょうか。
2:22:40	そう。
2:22:42	そういう観点で見ると、福浦断層も、
2:22:45	兜岩断層も、稲見若井の地層の中にあるという、
2:22:51	いうことでは違いがないように思うんですけどもこの点はいかがですかね。
2:23:03	堀連絡のキムラです。福浦断層は、この
2:23:10	断面で示す通り、岩稲階まなびハヤタベツショだけ安山岩類、
2:23:16	の中にある断層ということで、
2:23:20	記載しておりますけども、兜岩沖断層は、この
2:23:25	33' 断面、
2:23:28	455 ページの 3' 断面で、D湾層と堆積層の間ということで、
2:23:35	この
2:23:37	兜岩沖断層の
2:23:39	上盤側D岩相見えておりますけども、下盤側、D案層は、見えておりませんが、深いところには、同じ、
2:23:47	いわゆる玄海のアノベツショヤギアンダマンで理想とする。
2:23:51	D層が分布しているというふうには考えられます。
2:23:57	ただ、フクダ断層との違いとしましては、
2:24:01	下部の容器断層は、
2:24:05	下盤側に堆積物が厚く堆積しているということに対して、フクダ断層は、そういう圧に対して物がなくて、
2:24:15	すぐ
2:24:17	臼田玄武岩類の出てる。
2:24:21	ていような地表、
2:24:23	もう、市にあるということで、そういった、
2:24:26	違いがあると。
2:24:29	いうふうに考えております。
2:24:31	以上です。
2:24:36	その地震発生層の中で議論する必要が、深いところの、
2:24:42	地質地質に違いがあるかどうかというのを
2:24:47	が重要になるかと思うんですけどもとりあえずちょっと数

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:24:50	その辺がわかるように記載しといてもらえないですかね。
2:25:00	はい、承知しました。
2:25:09	規制庁甲斐です。私も何点か確認で、
2:25:13	例えば 459 ページとかで、福浦断層と兜岩沖断層の間に断層は認められないというふうに書いてありまして、
2:25:25	これはもうそういうことかなと思うんですけど、これは連動評価の話とどう関係。
2:25:32	してくるのか。
2:25:34	今までの説明の中、
2:25:36	ちょっと関係してないんですが、これ、意味を、どういう意図というか、意味があるのか確認したいんですけども。
2:25:46	北陸電力の木村です。446 ページの方に、
2:25:53	年度を、のウノ、当社が連動の有無を判断するために確認する項目として、
2:26:00	五つ挙げておりますけども、その中の一つとして、地質構造の連続性というのがございます。
2:26:09	断層外ですか反射、背斜構造ですとか流体の連続性、そういった地質構造の連続性という項目がありまして、
2:26:17	それについて、フクダ断層と兜岩沖断層の間の、
2:26:23	反射ですとか、音波探査記録、
2:26:26	それから、
2:26:28	456 ページの反射と音波探査記録、それが 458 ページの地下深部構造の
2:26:36	反射VSPの記録。
2:26:39	を見ますと、間に、
2:26:43	両断層の間に連続するような断層がないということは一つのれん
2:26:50	連動を
2:26:51	否定する根拠になるのではないかとということで、こういったデータをつけております
2:26:57	以上です。
2:26:59	規制庁甲斐です。わかりました。
2:27:02	この地質構造の連続性というのは、
2:27:05	ちょっとどっちかっていうと高校繋がってるやつの方をイメージした款項目なのかなともちょっと
2:27:15	思っていましたけど、こういう併走してるやつにもそういう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:27:19	適用してるのであれば、いずれにしろ
2:27:25	459 とか 60 とかで認められないで終わっちゃうと、だからってというのがわかりづらいので、書いておいて、ゴコウなんだっていうところまで書いておいて、
2:27:37	いただきたいのでよろしくお願いします。
2:27:40	これはその記載をお願いしたいなど。
2:27:44	あとこの、
2:27:46	検討で、
2:27:47	共役断層っていう話が出てきて、共役断層ではないんだっていう、
2:27:55	説明をされてるとその内容はともかく、
2:28:01	共役んしかないんだっていうよりも、二つ併走してるようなときに、
2:28:07	連動するのは共役だけ、
2:28:11	考えておけばいいんだっていうふうにも見えるんですけども、
2:28:17	協約以外は、もう大丈夫だっていうところは、
2:28:22	何かあるんでしょうか。
2:28:41	北陸電力の木村です。
2:28:44	協約でない。
2:28:46	ということ。
2:28:48	もそうですし、446 ページに、
2:28:52	断層の傾斜方向ですとか、地質構造の連続性、
2:28:56	ですとか、こういった項目を見て、総合的に評価すると。
2:29:03	404、53 ページのようなまとめになりまして、
2:29:09	断層面の傾斜方向を、地質構造の連続性、
2:29:14	重力異常分布、こういったデータから、
2:29:18	両断層がともに震源断層として同時に活動することはないというふうに評価をしております。
2:29:26	以上です。
2:29:29	はい。
2:29:31	規制庁の海田ですわかりました。協約の検討はしたのはわかるんですけども
2:29:39	ちょっとその辺りが、
2:29:42	不明確というか、
2:29:43	これだけよければもういいんだっていうふうにもちょっと見見えるような構成だったので、
2:29:50	今推すご説明あったようなことがわかるようにまた記載を、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:29:55	お願いします。
2:29:58	あと、461 ページのこの検討なんですけれども、
2:30:04	461 か。
2:30:08	と、
2:30:10	これちょっとすみません私も確認したかったのが、
2:30:15	60 度、角田とか、T角田っていう話はわかるんですけれども、
2:30:23	これ
2:30:25	ここで引用されてるような文献。
2:30:28	ていうのは、
2:30:31	東邦弾性体みたいなものを、初生的に終わった時にこういう、
2:30:37	割れ目になるっていう、
2:30:39	それに近いようなもので、
2:30:42	何かもともところ、
2:30:44	古傷があるようなところ、
2:30:47	でもこれ、
2:30:48	要は、すでに
2:30:50	破断面があるようなところでも、
2:30:53	こういった何て言うか説明っていうのは成り立つのか、っていうところが ちょっとこの資料からわからなかったんですけれども。
2:31:04	その辺、いかがですか。
2:31:09	北陸電力の木村です。もともとフクダ像兜岩沖断層という二つの破断面 があったときに、共役じゃないということが、
2:31:18	連動しないという根拠になるかどうかということですけども、共役断層で ないということは
2:31:26	同じ応力場で、同時に、
2:31:29	動くことはないというふうに考えられますので、
2:31:34	こういう類似の形態の断層、
2:31:40	既存のハダ断面として、二つ。
2:31:44	あったとして、ここに同じような
2:31:48	応力場がかかったときに、両方の断層が動く。
2:31:52	応力場というのは、
2:31:54	ではないので、
2:31:56	教育ということは、教育ではないということは、
2:32:00	この二つの断層が同時に、同じ応力下で動くことはないということはい えるというふうに考えております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:32:09	以上です。
2:32:11	規制庁の宮脇です。
2:32:13	ちょっと今のご説明なんですけども確かに
2:32:18	60度の方が動きやすいっていうのはわかるんですけども、
2:32:26	論客の場合でも、絶対動かないっていう
2:32:29	ことは、動きにくいかもしれないけども、
2:32:32	動くかもしれないですよ。その辺の、
2:32:35	何か論理的な考え方っていうのがちょっとわからないもん
2:32:39	なんか、
2:32:40	そういうふうな文献とかっていうのがあったら、示してもらう必要があると思うんですよね。
2:33:11	北陸、
2:33:13	保有電力の野原です。
2:33:15	今ほどの件古傷がある場合にどうであるかとか、そういった観点で、今一度、文献ですとか、そういったところは、
2:33:25	ちょっと確認させていただきたいと思います。
2:33:28	そのように、現在我々が主張しているこの内容、補強できるもの、
2:33:32	があれば追記していきたいと思います。
2:33:36	以上です。
2:33:39	規制庁ノダですけど、野原さん
2:33:42	回答ありがとうございます。
2:33:44	ホデ。
2:33:46	私はこれはちょっとよく、
2:33:48	わかんないっすね。
2:33:50	わかんないというか、
2:33:51	これで、同時に活動する。
2:33:55	根拠として、活動する、しない、この場合は活動することがないと判断される根拠として適切かどうかは、私は現時点だと。
2:34:05	すいません。よくわかりません。よくわからない理由は、もうちょっと
2:34:13	上位の概念で考えたときに、さっき、
2:34:15	海田さんからもコメントありましたし宮脇さんからコメントあったんですけど、
2:34:22	そもそも、
2:34:23	これだけをもって、
2:34:25	この中越沖地震だけをもって、その共役断層

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:34:30	ん違うな、共役断層の事例として中越沖地震のこれだけをもって、
2:34:35	説明することの、
2:34:37	うん。充分性とか充足性ですよ。というのもそうですし、
2:34:42	ここの兜岩と福浦に対して、この中駅を中越沖地震を、この事例を適用すること。
2:34:53	妥当性ですよ
2:34:55	うん。そういう。
2:34:57	知見としての充足性的、中越沖地震、それを踏まえて中越沖地震を適用することの妥当性、
2:35:04	うん。私はそういうことが、ちょっとこれもうそもそもよくわからない。
2:35:10	ので、こういう検討の仕方これはもちろんここだけではなくてこれ以外のところも御社は、中越沖と、あと、バックスラストのほうは北海道南西沖を使われてるんですけど、
2:35:22	ここ以外も含めて、ちょっとそこは私はそういうもうそもそも、そもそも論としてそういう検討が適当なのが適切なのかっていうところが、疑問です。
2:35:32	というのが1点と、あと2点目は、一番初めに宮脇さんから、
2:35:38	例えば逆断層と仮定した場合の話とか、あとは傾斜カクウを60度と仮定した話とかあったんですけど、
2:35:48	私知ってる限りではこういう断層の連動を検討してる時は基本的には調査データに基づいてやってると思うんですよ。
2:35:58	それはガイドにもそういうふうにかかれてます。
2:36:02	そういった中で、もちろん石田さんの説明を私は理解はできますけど、うん。そういう調査データではなくて、
2:36:12	周辺情報からの仮定を置いて検討することが適切なのかということもそうですし、
2:36:20	特に
2:36:23	福浦と兜岩なんかは、敷地に近くて、やっぱり敷地に近いところっていうのはしっかり調査をしてデータをとって、
2:36:33	そのデータをベースに議論すべきだと思うんですね。例えば福浦なんかそうだと思うんですよ。そういうなんすかね。データの、
2:36:41	充足性っていう観点も踏まえて、こうやって仮定を置いて、
2:36:46	連動、
2:36:47	の議論をするのが適切なのかっていう。
2:36:51	これもちょっとそもそも論みたいのところ入ってしまうんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:36:55	うん。そういうところから、ちょっとこれは議論する必要があるんじゃないかなとか、私は思います。なぜかというとならば敷地に近い。
2:37:05	です。
2:37:06	はい。私から以上です。
2:37:17	北陸電力の藤田です。
2:37:19	野田さんありがとうございます。
2:37:21	株、仮定を行った検討ということで、
2:37:26	コメントありますがそこにつきましては我々持つて今音探の記録ですとか、そういったところがどう読めるかというまずデータに基づいたことと、
2:37:35	周辺の環境とも整合してるとかその辺は整合してることにはしか使えないとは思ってますんで、
2:37:40	まず今のような一言で仮定するような話は、審査していただく、
2:37:46	以前の話だと思いますんでそこはしっかりデータに基づいて、
2:37:49	書けるところをしっかりと書きたいと思います。
2:37:52	あと 448 ページに我々、
2:37:55	ちょっと事例として北海道の南西沖の話と、
2:38:02	柏崎さんの関係もあって、中越の話事例としてちょっと整理の仕方がすごく、
2:38:08	良くなかったかなと思うんですけどこういった事例があるんで我々どういふところに着目して評価すべきかっていう、ある程度モチベーションとしてこういうことがあったからこういうことしたいっていう、
2:38:17	ことで整理、金はし直したいなと思いますんで、この蓋IIIに対して検討したからいいというそういった記載のまとめはしないつもりです。
2:38:27	先ほど
2:38:29	まとめの資料の方でインダの方が画面に映した日棒の中では、我々も中越ですとか、
2:38:38	北海道南西沖と違ふとかそういう言葉を書くつもりなくて、こういったバックグラウンドがないでしょとか、連動した水はそういうことがないということをしっかり説明するような、
2:38:49	まとめにしていきたいと思ってます。
2:38:52	ということで
2:38:53	446 ページも、国の連動の
2:38:56	結果をまとめた上で、他の事象も踏まえると、448 みたいな検討もしなきゃいけないということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:39:03	少しどういうことをやるかというまとめのところが少しわかりにくくなってますんで、
2:39:07	我々としてはどういうふうなことを検討するっての1回まとめた上で、
2:39:12	それに基づいてしっかり検討した総合評価はこうですっていうふうな流れ。
2:39:16	の方が少し理解していただけるのかなと思いますんで、少し整理の仕方を少し、
2:39:22	データに戻ったところから始めて、どういう考えに基づいてやるってところをもう1回ちょっと再整理させていただきたいとますんで、よろしくお願いします。
2:39:30	はい。すいません。1点だけ。今ほどの、
2:39:33	ハヤシ、兜web断層傾斜角、そして逆断層かっていう項目について、周辺断層からメール述べたって言いましたけども、
2:39:43	実際これについては直接的なデータから言えますので、それをしっかり述べたいと思います一つちょっとだけ補足いたしますと456ページの教訓がありますこれもですね、しっかり大きく載せますけれども、
2:39:58	これ兜岩沖断層という海田、赤の点線、矢印の位置から、沖東側陸側に少しヤマダの構造が、AからBSsまで見えます。
2:40:09	これについては、少し背斜構造が持っていて、東側の沖からずっと消されに来て少し盛り上がります。
2:40:17	水平から少し乗り合わせ、要するに背斜構造があります。背斜子役段数には必ず背斜構造ができるという論文はありますし、この形態をもって直接的に断層を抜いて、逆断層成分の条線を確認したわけではありませんが、
2:40:31	こういった直接的な記録をもって言えますので、その辺も含めて、傾斜角についてもそうです。これ、堆積層がありますので、傾斜変換の位置を上から下まで、
2:40:42	追っかけてきて、角度がどれほどかというのもしっかり追跡、来て書いてですね、ほ周辺でタカダではなくて、直接このデータから何がいえるかというのを、
2:40:53	複数断面ありますので、それも合わせて表示して、させていただきたいと思います。以上です。
2:41:02	規制庁の野田ですけど、まず、吉田さんご説明ありがとうございます。私も、456を見て、例えばこういったところから、これちょっと1対6で随分縦横比が大きいんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:41:13	例えばこういったところから、傾斜角って言えないのかなとか、ちょっと考えておったんで、ありがとうございます。
2:41:21	あと、冒頭の藤田さんの話は、はい。今の藤田さんのご説明私はクリアに理解できました。いずれにしても、
2:41:32	私、我々例えば、市審査会合でも指摘した北海道南西沖もそうですし、御社が挙げていただいている
2:41:40	今日、共役の中越沖っていうそういう事例を横目で見るということは、否定しませんけど、それを画一的にすべてに当てはめるっていうところが、
2:41:51	どうかな、要するに一言適用性っていうことだと思うんですけど、そういったところが少し、この資料見て、気に、気になったというか、事実確認がいろいろ必要な部分があったんで、
2:42:03	その点をちょっと今日、事実確認できましたんで、またちょっと次回のヒアリングに向けて、資料の方、見直していただければと思います。以上です。
2:42:19	北陸電力藤田です。
2:42:21	今日
2:42:22	かなり考え方のところまで踏み込んで議論できたと思いますんで、次回 はしっかり
2:42:28	そういったものが反映できた資料でまた確認いただけるとと思いますんで、資料の方しっかり修正したいと思います。以上です。
2:43:09	次
2:43:11	碁盤島大きいと、
2:43:14	これは研ぎ側南岸断層の連動、
2:43:17	これ 463 ページ。
2:43:20	から、
2:43:21	うん。
2:43:23	この 464 ページに、
2:43:27	これもまた音波探査断面で逆断層として仮定した場合っていう文言がありますんでここところは、その実際のデータに基づいて、
2:43:37	他記載とするように具体的に書いてくださるようお願いいたします。
2:43:43	それから続けて 466 ページ。
2:43:49	467 ページにですね。
2:43:54	このバックスラストとなるような逆断層がないということ、
2:43:58	事業者が示してるんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:44:01	パターン差っていうのはせいぜい 200 メーターぐらいの断面なんですけども、これよりもっと深い断面っていうのはないんですかね。
2:44:13	北陸電力 1 社です。
2:44:15	まず 1 点目の碁盤島沖断層の逆断層等の直接的なデータにつきまして は宇都岩木断層と同様に直接的なものから、いえることを、
2:44:26	記載していきたいと思います。
2:44:28	2 点目
2:44:32	これよりも深いデータですね、アイデアの有無というところになってきま すけれども、産総研のエアガンが何測線か、この付近に碁盤島沖断層 の付近には通っていますので、
2:44:46	そちらの測線を確認しまして、
2:44:50	大分市長、
2:44:53	できるかどうかについて検討したいと思います以上です。
2:44:58	はい。よろしく申し上げます。他に何か規制庁側。
2:45:04	ないですか。
2:45:05	いや、次行きます。へえ。
2:45:08	ナゴ三崎沖断層体と泊容器東撓曲の連動、これ 475 ページ。
2:45:15	え。
2:45:17	そうですねこれも同じですね。あと、逆断層。
2:45:21	逆断層と仮定した場合っていうのは具体的に、
2:45:26	実際のデータに基づいて書いていただくということと、それからバックス ラストの話ですね。
2:45:32	これもちよっと数 1000 メーター程度のスパーカー及びエアガンのためし かありませんので、
2:45:39	まず、もっと
2:45:41	事業者の言うことを主張するのであれば、今のことを主張するんであれ ば、
2:45:46	深い断面、反射探査断面を示していく。
2:45:49	いただければと思います。
2:45:54	北陸電力一緒です。すいません。もう一度最後の方もう一度お願いでき ますか。そのバックラストからなるような逆断層の、
2:46:03	逆傾斜の断層がないところなんですけども、これも深度 1000 メー ター以前の断面しか示されていないようなんですけども、
2:46:12	より深い断面が、
2:46:16	あるようでしたらこれ示していただきたいと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:46:20	北陸電力 1 社です。
2:46:22	この海士岬と泊行き東撓曲の付近に関しましてはもうこの産総研の、いわゆる 1000 メータークラスのエアガン以外ですとこの 477 ページ 478 ページの、
2:46:37	進路 3 キロから 5 キロぐらいのエアガン。
2:46:41	しかも、実際データはありません。
2:46:43	とはいえ、この酸素地調のエアガンに見ましても、実際こちらにつきましては攻めたクラスになりますと、
2:46:53	D 湾層、音響基盤まで見えていますので、実際断層等があれば、先ほど言いましたけれども、傾斜変換点法ですとかスパーカーより詳細な
2:47:04	もので見ればそういった傾斜変換等も見えてくると思いますので、こういった評価できると思っております。そういった記載、そういったことがわかるような記載、こういったところに着目してこういっ
2:47:15	た例えばスパーカーですと浅部ですし、エアガンですとこういった D 湾層、音響基盤に変形がないというところを、こういったところに着目してこういったバックスラストという、なるような逆傾斜の断層等がないという、
2:47:27	言っているのかについて、ちょっと中記載を充実したいと思います。以上です。
2:47:34	よろしくお願いいたします
2:47:35	他に規制庁からあります
2:47:42	海士岬沖断層体と
2:47:47	石田さん今規制庁ノダですけど、石田さん今ご説明ありがとうございました音波探査記録でターゲットとしている深度の話、多分今の話。
2:47:57	今日の前半でも議論しましたし、今の、今後、今後っていうか他の多分、連動のところにも、共通する話だと思いますんで、もし記録があるようだ。
2:48:08	でしたら、そういった形で、浅部、チューブですかね深部っていう形で、根拠を示して、それをベースにご説明いただけると、
2:48:18	連動の何ですかね、エビデンスになるんではないかと思えますんで、そういう観点で、よろしくお願いいたしますと思います。以上です。
2:48:30	はい、承知しました。
2:48:34	もうちょっと時間もあれなんでこれはというところだけちょっと。
2:48:41	コメントさせていただきたいと思えます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:48:46	土佐佐貫断層ザイゼン町と能登半島北部沿岸域断層体の連動についてなんですけども、
2:48:53	これ 539 ページ。
2:48:59	541 ページちょっと、
2:49:08	前回の審査会ドーン介護では、
2:49:12	笹谷さん、猿山沖檀セグメントの屈曲については、
2:49:18	震源として考慮する活断層として考慮して、
2:49:21	地質構造の連続性の分を検討することを求めていたかと思います。
2:49:26	事業者相変わらず
2:49:29	545 ページに示すような、その断層端部の
2:49:34	屈曲部は断層端部の変形なんで震源断層ではないというふうな主張をしてるんですけども、
2:49:43	これはどういうことなんですかね。
2:49:47	規制基準に従うと、
2:49:50	後期更新世以降、
2:49:52	Aが認められる断層については、
2:49:55	震源を考慮する震源を考慮する断層、
2:49:59	とするというふうになってるんですけども、
2:50:03	鳥飼電力一緒です。すいませんこちらちょっと説明の方でも、
2:50:09	説明させていただいたんですけども、こちらちょっと機、
2:50:11	記載があまり適切ではなくて実際は、我々コメント回答としてはやはりこの震源断層として、
2:50:17	考える。
2:50:19	というふうに考えております。ただ、544 ページのように、実際この
2:50:25	屈曲部のところに関しましては実際変位量が大きく出ているというようなデータがありまして、実際この
2:50:32	変位量、N1N2 を除けば実際綺麗なヤマガタを示しているんですけども、このNGN2 が大きい値を示すことの解釈として、
2:50:42	こういった 545 ページに示すような横ずれ、断層の特徴として、二次的にできた。
2:50:50	いわゆる逆断層成分の変位が大きくなるような、
2:50:53	でき方をしているというような考えはまだ持っております。ただ震源断層ではないという記載は適切でないんでこういったところの記載については修正させていただきたいと思っております。以上です。
2:51:06	はい。よろしくお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:51:23	規制庁の海田です今の点で1点だけ確認です。541 ページで今、
2:51:30	説明あって屈曲部で二次的っていう、その説明なんですけど、
2:51:36	これが連動の評価と、にどう関係してるのかがちょっとわかりづらくなってきてまして。
2:51:43	541 ページで笹波沖、東と西のところも同じような屈曲部分で、
2:51:50	何だ二次的なものです。
2:51:53	と言いながらこっちは連動する。
2:51:56	もう片や
2:51:58	猿山と、このあれですかね。
2:52:01	笹波沖の間も同じような屈曲部で二次的です。
2:52:06	ていう、こっちは連動しないっていうことでこう二つ矢印書いてあって、同じようなもんですって言いながら、
2:52:14	連動するしないが分かれてるんですけど、これは何か連動評価に何か間、
2:52:20	どこどう関係してるのかっていうのがちょっと資料読んでてわかりづらかったんですけど。
2:52:25	そこをよく目、わかるようにまた書いておいていただきたいんですけどよろしいですか
2:52:34	はい。北陸電力の野原です。
2:52:37	この段差型の屈曲部が、震源断層ではなく二次的に形成されたものであるという記載、前回の会合のときには、
2:52:46	佐貫断層だとされるべき断層体の
2:52:49	主部といいますか、
2:52:52	そこの離隔ということを主張にしておりました。そういったことでこういった記載を書いておりますが、
2:52:57	今回、屈曲部が震源断層と見ることによりまして、その主張は取り下げております。
2:53:03	従いましてこの記載見直しますが、
2:53:06	この部分が、その連老
2:53:09	の評価には直接は関係しなくなります。
2:53:12	従いましてそういったことがわかるように資料の方を修正したいと思います。
2:53:17	はい。
2:53:19	規制庁の海田です。ちょっとその辺がちょっと今回資料読んで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:53:24	わからなかったのでアノを読んでわかるようにまた記載の方、適正化をお願いします。これ特に回答必要ないんで、
2:53:39	規制庁の宮脇ですと、時間がないんでと
2:53:43	次、別の
2:53:44	断層に行きたいと思います。
2:53:47	いいですか。
2:53:50	ちょっと確認したいんですけども、前野清東方断層台東猿山三崎北方、
2:53:56	沖縄総体の連動の検討でも、557 ページですね。
2:54:05	この下の
2:54:08	反射断面の図が二つ。
2:54:12	記載されてますけども、この猿山
2:54:14	三崎。
2:54:16	イセの断層っていう
2:54:19	この記号ですね、この黒、
2:54:23	組矢印の記号っていうのは、これはBは想像以上に、
2:54:28	変位変形の可能性が否定できないという
2:54:32	上の凡例を見ると、そう書いてるんですけども、
2:54:36	これ箱書きの中に、
2:54:38	書いてある。
2:54:39	記載は、
2:54:43	変形はないという記載なんですけど、これは何か、
2:54:47	凡例が違うということなんですか。
2:54:51	北陸電力 1 社です。
2:54:53	こちら猿山三崎、伊勢の断層につきましては、こちらエアガンの測線になっていますので、実際細かいところ、キューソーと呼んでるところが実際、
2:55:05	細かい、探査深度の言い分海田の測線でいうとA層とB層にあたる部分になりますけれども、
2:55:13	このエアガンクラスの分解能でいくと、後期更新世以降に活動の可能性があると評価になるんですけども、この猿谷三崎イセの断層につきましては、
2:55:24	これ以外にも、もっとエアガンよりももっと浅いブーマのデータとか、かなり充実しています。このブーマー等のデータを確認しますと、
2:55:34	青色のB湾層以上に変位変形は認められないという断層として評価されますので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:55:41	実際佐山三崎伊勢の断層の
2:55:44	断層の評価としては、後期更新世以降の活動がないという評価になっております。ただここ、今、佐山三崎北方断層と前野セト方断層体の間に、
2:55:56	そういった活動、活断層的な構造があるかどうかということを確認する上で今このアガワを示したんですけれども、そういこのエアガンで見るとちょっと黒マークになってきているんですけれども、
2:56:08	そういった評価をしていますので実際は三崎清野断層については古い構造だと考えています。
2:56:14	実際この文献トレース記載していますけれども、文献もこのしゃれ三崎伊勢の断層に関しましては、古い構造であるというふうに記載をしていますので我々の評価と、
2:56:25	整合しているということも確認しております。以上です。
2:56:29	ちょっと今のご説明がもうわかるように少し記載を充実していただけないでしょうか。
2:56:36	北陸電力石田です。承知しました。
2:56:38	よろしくお願いします。
2:56:44	あとですね
2:56:48	外山音声、
2:56:49	とヤマニシ側、海域断層とトナミ部屋断層体の連動ですね。
2:56:56	575 ページで、
2:57:08	576 ページは、
2:57:12	いや、75 ページで、
2:57:15	この図を見ると、赤道断層の北側に高岡。
2:57:22	石動イソベイセ失礼シマイシグロイシルギ
2:57:27	A断層の北にある高岡断層っていうのがあるんですけども、
2:57:31	これについてのエンドウの、
2:57:35	評価っていうのは、この昆高岡断層っていうのは、
2:57:41	都市圏活断層図に記載されてるんですかね。
2:57:44	これ結構近い距離に併走してあるんですけども、これについての
2:57:50	連動についての検討というのは別項目立てをしてないようなんですけども、それはなぜなんですか。
2:57:59	グループ電力の小林です。衛藤高岡断層につきましては、一応連動するかということは、577 ページのほうで記載しております。
2:58:11	こちらの方で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:58:13	まず地形的な根拠であったり、阪神堀川れるというふうな背景を書いておりましたかつ、連動につきましては、部分四角に、
2:58:25	四つ目の丸ですね、の方に書いておりました、高岡断層については、千野宮断層体制部や富山湾主要海域断層と異なって、
2:58:35	NHKとしてあるので、規模の大きな知見教壇となっているので、構造形態が
2:58:42	この二つの断層とは異なりますということで、連動、
2:58:46	するものではないというようなことを、
2:58:50	そういった考えを持っております。
2:58:53	で、そちらの方ですが、
2:58:57	そうですね。
2:58:59	572 ページの方で、
2:59:01	地質構造の欄がありまして、
2:59:05	その中の一番下のポツですね、さらに、両断層の間の陸域にはというところで、今記載をしているところでございます。以上です。
2:59:16	これは
2:59:19	その他の断層体の連動検討と同様に、
2:59:23	別途その項目だて押してやるべきなんじゃないですか。
2:59:34	9 電力の小林です。こちらの差につきましては、まず 30 キロ以遠の断層につきましては、敷地からの距離だと長さという観点から、まずおっきなもの。
2:59:44	影響の大きいものを提出するということで、また、断層財政部
2:59:49	あと、西脇断層が大きく上がってきているということになります。
2:59:53	高岡断層は、比較的規模が小さいものでして、かつ、文献としては、都市圏活断層図に示されておりますが、例えば、
3:00:05	水分の評価には示されていないということがありまして、今回、分布に比べて示していないということになります。以上です。
3:00:15	その辺の期アノことがわかるようにどっかに記載しておいていただけなんですが、どういう理由で、
3:00:22	その件は、
3:00:26	外しているのか、高岡断層についてはその外しているのかというところ。
3:00:31	最初の方になるかと思うんですけども
3:00:37	その連動を考慮する断層を抽出するプロセスがあるわけですよ。です。
3:00:44	そこでこれについては外したということ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

3:00:47	その理由ですね、それをちょっと記載しておいていただきたいんですけど。
3:00:53	クリニックの小林です。了解いたしました。
3:00:59	他に、全般通して何か規制庁から。
3:01:04	技術確認。
3:01:18	規制庁の方からはもう特に
3:01:21	ありませんので事業者側から何か、
3:01:25	質問とかありますか。
3:01:31	北陸電力藤田です。弊社の方から特に追加の確認事項はございません。以上です
3:01:39	それでは
3:01:42	志賀原子力発電所 2 号炉のその敷地周辺海域のヒアリングを終了したいと思います。ありがとうございました。
3:01:50	ありがとうございました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。